令和５年度後期「子どもの提案」に寄せられた意見

※明らかな誤字などを除き、寄せられた意見を掲載しています。
※１と２で重複する提案は、提案者本人から両方についての提案であるとの指定があったものです。

テーマ　認知症の人にやさしいまちになるためには
２：認知症の人やその家族を地域で応援するためには？（447件）

提案内容
１で書いたような移動していろいろな場所でこうえんを行うクラブを各地域につくり、そのクラブを市や県が応援して、認知症の人がいる家族の負担をすこしでもへらすといいと思います。 移動式のこのクラブをすべてまとめられるような会社をやとってもいいと思います。 各地でこうえんをしていけばこのクラブの会員たちはいろいろな人のためにいきていられるというようなわずかでも生きがいが見つけられると思います。
認知症の人やその家族を地域で応援するためには、前述したように、まずは、各地で講義を行い、差別や偏見をなくしていくことによって、市民に理解を広め、認知症やその人の家族が市や、まわりの人々に助けを求めやすい環境をつくることが大切だと考えます。 そして、なにより、前述したことを実せんしていくためには、市役所の職員など、を対象とした講義を行うことによって、職員の間での理解を広めていくことが第一だと考えます。 職員の皆さまが、理解を広げることによって、認知症の人々によりそった、政策などを行うことができると思ったからです。 そして、認知症の人やその家族が助けを求めてきた時には、各自治体が家族のよう望をきいたり、ヘルパーをつけるなど様々なサポートをしていくことで、認知症やその人の家族によりそって、応援することができるのではないかと考えました。 長文失礼いたしました。
地域で募金を実施して、認知症の人への支援にする。 認知症を正しく理解し、認知症の人を思いやれるようにする→みんなが通りかかるようなところや見るようなところに、認知症について詳しいことをポスターにする。 認知症のプロに講義してもらったりする。 実際に認知症の人に出てきてもらって偏見や差別の撤回を呼びかけてもらう。
認知症の人目線のVRをつくって体験できるようにする。 そのVRを無料で体験できるし設をつくる。 小中学校の特別授業などで認知症についての授業を行い、子供たち認知症に関する正しい知識を身につけさせる。 街で募金を行って、認知症の人の介護などに必要な費用にあて、家族にも働く余裕を持たせる。 高齢者の認知症防止のため、パズルなどの頭をつかうことができる施設をつくる。 認知症の人やその家族にお金がいくような保険制度をつくる。 社会人などにも認知症について知ってもらうため、街に認知症に関するポスターをけい示する。
小学校の時から特別活動等の時間を通じ、認知症について知っている状態にし、中学校の時に本格的な認知症についての授業を行う時間をつくっていけばよいと思う。 また、認知症についてより広く知るため、市役所等に認知症等に認知症の人はどのような症状があるかを知れるブースを作ったり、そもそも認知症になったときに相談することができる相談窓口（電話やメールも使えるようなもの）をつくるべきだと思う。
掲示板を設置する。 埼玉県のホームページに書いたりテレビやスピーカーの放送などで認知症について説明する。 街中で認知症についての演説をする。 ポスターを電車やバスなどの目に止まるところに設置する。 認知にかかる可能性があることを知ってもらい、危機感をもたせる。 福祉事務所などへの料金を高くする。 県で募金を実施する。
認知症の人にも分かりやすい地域づくりをすること。 （矢印の書かれた看板を増やして認知症の人々が迷わないようにする。認知症の人が迷ってしまっても行きたいところや家へ行けるように見つけたらやさしく声をかけ、案内したりする。）
・学校などで、認知症になったらどのようなことが起こるのか、説明するようにする。 ・小学校などの校外学習として、認知症の方に会いに行き、少しでも楽しい思い出をつくる。 ・認知症になった人が、脳を活性化できるようなパズルなどを提供し、少しでも記憶力等が保てるようにする。 ・認知症の方の豊富な経験を学校でお話してもらう。
・認知症の方々とのレクリエーションなどをする⇒認知症の方々と接することで理解を深められるのではないか。 ・小学校・中学校などで、実際の認知症の方の家族から話を聞く機会を作る。⇒実際の苦労などを聞くことで、応援しよう！などという気持ちにさせる。 ・ポスターなどを作る［例］〇人に2人が認知症です（になる可能性があります）等⇒興味や関心を持ってもらうきっかけをつくる
年に一回小学校などで、認知症の講座を開き、認知症に対する認識を正しくさせる、合計六回行うことで認知症に対する認識を深める。 道徳の教科書でも取り扱う。 また、医療技術の進歩などで認知症の人を救えるようにするために病院や、研究所などに寄付をして、ニュースなどに放送されるなどで認知症を周知させる。
認知症を他人事だと思わず、自分もいつ発症するか分からないということを呼びかけることで、そのために今できることを考えさせる。
・認知症の方のお世話に必要な物が安く買えるようになるパスポートをつくる。 ・介護老人しせつを市が新たに作って、数をふやして、市が経営していく。 ・地域に認知症の人とその家族が集まれるような機会を作る。 ・認知症の人への理解を深めるためにポスターなどをせいさくしてはる。 ・認知症の人へのリハビリサービス用のしせつを新たに作って運営する。
地域の人で認知症の人やその家族を応援するイベントを開さいする。 認知症の人が通える、老人ホームのようなしせつを作る。 認知症を少しでも改善できるような研究をする。
・認知症の症状と共に認知症の人をその人が住む地域の人に伝え、日々の生活でサポートしてくれるようにする。 ・地域で認知症の人も楽しめる祭りなどを行い、地域の人と認知症の人の仲が深まるようにする。 ・認知症が軽くなるようなゲームなどを地域で開さいする ・認知症の人に寄付するときに金額に応じて、何かを寄付した人に渡す
認知症の人のためのメモなどの配慮、適度な声掛けなどをする。 地域の人たちで認知症の人のかおを覚え、さまよっていたりしたら、家族であんない。

提案内容
地域で募金を集めて認知症の人やその家族に寄付する。 ホームページに認知症の相談ができるようなところを作る。 認知症の人にどのように接したらいいかをホームページ等で広める。 認知症の人も生活しやすい地域づくりをする。
「認知症サポーター養成講座」に参加して、認知症について知る。 そして、その知識を家族や地域などで共有し認知症について知ったうえで認知症の人と関わり、認知症の人が困っている時など協力して助けるようにする。
認知症の人とその家族へ市から支援金を出す。 生活が苦しくなった場合は申請できるようにする。
・認知症の人同士がふれ合う機会を作る。 ・さいたま市のホームページで認知症の正しい知識を広める。
認知症を軽減させるには病院に行かなければならず、そのためには多額のお金が必要である。 そのためその家族の方々に経済的えんじょをする。 認知症が悪化してしまうと、昼夜が分からなくなったり、ご飯を食べたかどうかも分からなくなるため、そのときも、優しく接してご家族の方に心配をあたえないということ。
認知症サポーター養成講座についてのポスターを配る。 市庁舎で認知症の人を集めて集会をする。 認知症の家族に講演会をする。 HPに認知症の相談ができるものを作る。 この紙に98000円を使わない。 学校で認知症の教育をする。 老人ホームなど認知症を防ぐ活動をする。 認知症の定期検査をすすめるポスターをはる。
認知症を正しく理解するためには、認知症を体験できるセンターなどを作り、認知症のつらさ悲しさなどを知れる機会があると良いと思いました。 正しく理解した後は認知症の病気というがいねんを大きく変えられるようなとりくみをしていけば
月1や週1で集会を行い、情報交換などを行う。 地域見守り隊を若者・中年の人でつくる。 地域見守り隊に入っている大学生は家賃を安くする。 公民館や毎週お年寄りが集まるイベントを開くなど。 認知症を知ってもらうために小中学校で出前授業を行う。 認知症を扱う専用の”科”を設置する（病院に）。 下関市のような”長寿支援課”を設置する。 啓発ドラマ・動画の作成
学校の保健の授業などで認知症について教えるべきだと思います。 私はもう少したら祖母の見守りをしなくてはならないと感じてます。 その時に、周りの友達が実態をすでに知っていて、「頑張っているね」と共感してくれたら、とても心が楽になるだろうと思うからです。
認知症の人の世話をその人の家族にまかせるのではなく地域で少しずつ交代で面倒を見るといいと思う。
認知症の人々の社会復帰を目指すため、認知症の人々が注文を取る食堂を作って「注文を間違える食堂」として認知症の改善をする。
認知症についてのポスターをつくり、どのように接すればよいかなどを理解することで認知症の人が暮らしやすいようにする。 また認知症の人が入れる施設を作りサポートしていく。 実際に、認知症の人と話す。
認知症の人を助けるボランティアをつくるといいとおもいます。 ボランティアに参加した人が普段の生活から認知症の人を助けることで地域のほかの人にも認知症の人への支援が増え地域の認知症の人を応援することにつながると思うからです。
・認知症に効く薬などを研究する ・補助金出す
認知症の人が家族にいる人たちが入る集会をつくり、その集会に地域が援助するための金や物をわたし、集会からその家族達へ金や物を配ることで地域から認知症の人やその家族を応援できる。
認知症の人の家族の負担を軽減させるために認知症の人の家族の困っていることを聞いて解決策を考えたり認知症の人の世話を助けたりする認知症のサポート団体を地域の中でつくる。 それでも介護がおいつかなくて困ってしまう家庭のためには、認知症の人のための老人ホームをつくる。
そもそも認知症の人が多発しないようにするため認知症予防教室をひらく。（⇒認知症にならないための対策を知る機会になる） 認知症の人たちをサポートするサポーターを地域ごとに多数配置する。 認知症の人を支えている人（例：家族）が悩みを話せる機会をつくる。→（認知症の人の対応のし方など）
各自治体で認知症の人とふれあう機会を楽しいイベントをしてもうける。 認知症のことについてパンフレットをつくる。
ドラマでやっていたように介護施せつ内ならどこに行ってもいいし、安全な場所をつくって認知症の人は自由に過ごせて介護士さんは危ない目にあわせないようにという責任感が少し減るから→認知症の人が自由にできる介護施せつをつくる。
認知症の本人または家族が参加できるコミュニティをつくってなやみを話し合える場をつくる。 地域の施設で認知症の人含め参加できるようなイベントを定期的に開催すること。 地域で助け合えるように認知症の人を知れるパンフレットみたいなものを配る。
認知症のことに関してあまり知っていなく身近でないため認知症に対しての誤解や偏見が多くあると思う。 なので認知症のことについて知る機会を多く作って正しい知識を身に付け認知症の人にあったときどのような対応をとればいいのか理解しておけば正しい行動を取れると思います。 また、高齢者のうち五人に一人が認知症になると予想されているため意識しなくても認知症の人とふれあうことが増えるので認知症の人を特別な存在として認識するのでなくお互いにどうやったら共生できるのかを模索していくのがよいと思います。
認知症になった人たちのために募金などをつのり認知症の人を介護する人をやとったり認知症の人を介護する介護施設を作ったりして認知症の人でも生きやすい環境を作る。 また認知症の人を嫌ったり無視したりせず積極的に助けたり優しくしたりして認知症の人と一緒に暮らしている家族にだけ負担をかけず地域全体で認知症の人やその家族を助けていく。

提案内容
認知症についての正しい知識を知ることのできる「認知症サポート養成講座」というものがあることを広めていけばいいと思う。 認知症の人は自分が認知症だと偏見などの関係から言わないことが多いので、認知症のことを正しく理解している人達「チームオレンジ」の存在を広めていけばいい。 そのためにはまず介護のための環境をととのえたりすることや認知症だと感じても無視したり嫌がらせをしたりすることなく接していけば住みやすい地域になると思う。
認知症の人を応援するためにその人の不安が和らぐようなカウンセリングを行うのがよいと思いました。 例えば病院に勤めている人以外でも認知症の人を救いたいという意志がある人に認知症の人の相談を聞いてもらえるような場を設けたらよいと思います。
認知症である人には適度な優しい声掛け（お体気をつけてお過ごし下さい。）を必ずする。
認知症の人をその家族が安心して住ませられるような施設をたくさんつくりどこに住んでいても症状が重くなった時に安心して預けられるようにしておく。 →認知症は自分で様々なこと（運動や家事）をいつもしていたり、会話をする機会が多いと、進行を遅らせることがあるので、症状の重さによっては自分で家事などができ、またほかの認知症の方と話すことが多いような施設をつくる。 認知症は全てのことを忘れるのではなく、人によっては、好きなことはいつまでも覚えていたり、幼いころの事は忘れなかったりすることもあるという考えを理解する。
・認知症についてまとめた動画を作る→学校などで見てもらえるようにする、街中で流す。 ・有名な芸能人と一緒に認知症について学ぶ、というテレビを企画する。 ・認知症の人が集まれる集会を開く→地域の人も参加（任意）認知症の人の家族 一緒にお昼ご飯を食べたりゲームをしたりする。 ポスター、掲示板、メール、やすらぎの場 ・認知症の人に家族が集まって相談しあえるお悩み講座のようなものを聞く。 ・チームオレンジに入る人を増やすために市のホームページや掲示板にそのことを書く。
その人が何か困っていたら手伝う。 当たり前だが差別して酷い扱いをしない。 認知症の人に何か言われても仕方ないと思い言い返したり反論したりしないようにして機嫌を良くしてあげる。 チームオレンジに入る。
認知症の人を介護する家族のうち、介護により仕事を休まなければいけない、または辞めなければならなくなったなどのように仕事に大きな支障をきたす人達に向け、金銭の配布や介護用の品などの配布をする、など。
認知症に関して説明するサイトを作成する（地域のホームページ等） 認知症の人達の日頃の生活や周りの人達の苦労を理解するため、そういう方々に声を集めて発信する。 認知症は誰もが発症してしまう可能性があるため、認知症について偏見等を持たずに、どのような病気なのか、どのような症状が出るのかなどを見つめ、この認知症によって苦しむ人々へのいたわる気持ちを大切にする。 認知症にかかる人はたくさんいるため、認知症の家族がいることでその人の身の回りのことを手伝ってあげなければならない状況におかれている人も同じようにたくさんいる。 そういう人達の日頃の大変さをしっかりと理解し、世の中には認知症にかかって記憶がなくなり心が閉ざされていってしまう悲しい人々がいることを深く受け止めるべきである。 そうやって正しい知識をもってそのような人々の苦労をいたわることが支えとなるのではないだろうか、と考える。
・自分が認知症であることを表すマーク等をつける（障害者マークみたいな？） ・認知症には多くの種類があるということを知らせる ・認知症の人による話題のセミナー？を開く ・認知症のレベルを分けてレベルが高いほど補助を優先的に行う。 ・認知症の人だけの集会を開く
介護施設の充実と介護をしている人への手当てを充実。 家族に認知症がいる人用の相談所みたいなサイトを設け気持ちをわかちあったりする。 介護しせつに入れる時の代金を減らす。 認知症のレベルを1～5のようにわけ認知症重度診断のようなものをつくる。 重度によって手当てを変える。
認知症の人がつけるリングをつける。 または「助けてほしいです。」と書かれているマークみたいのをつくる。 認知症に対して悪いイメージをつけないようにする。 「病気って聞くと悪い思いをしかしないけれど認知症は誰でもおきるかもしれない病気なので、病気を知るためにでもいいから助けてあげてください」みたいな？ 偏見によって家族は相手を困らせちゃうとか、自分達がはじをかいちゃうとかと思うので、偏見をなくすような運動や、認知症の症状は記憶がなくなる病気じゃないよなど周りに発信するようにする。 認知症を知る動画や新聞などをつくって周りに発信する。
ポスターや学校などで認知症について考える機会を作る。
認知症の人は何をするか分からないものだと言われています。 家から一人で外出し、そのままどこかへ言ってしまったら、自ら家に帰れない可能性も高いです。 そんな事を減らすためにするべきことは、その人に会ったら、少し会話をしたりあいさつをしてみることだと思います。 少しでも自分の事を覚えてもらえれば、困った時に、助けを求めに来てくれるかもしれません。 それから、町などで一人で歩いているのを見たら、家族の方が近くにいるのかを確かめたり、一緒に家まで帰ったりすることで、認知症の人が行方不明になってしまうことを防げると思います。 また同居人の人は、地域の人に自分が留守の時に代わりに居てもらったりして、安心して外出することができると思います。
普段友達との会話などでは「認知症の人は気味が悪い」などという考えがよく口にされる。 自分も、そう思ってしまうことが多々あるが、「いずれは皆がそうなることが多い」と考えると、そんなことはないはずだと分かる。 なので、認知症に対して皆が正しい知識を持つことが、認知症の人を応援することにつながるはず。 中・高生にその正しい知識を伝えるには、学校の図書館にそれに関する資料や本を置いて手に取れるようにしたり、電車の広告なども、電車通学する人にとってはよく目に入るので良いのではないかと思う。 認知症について正しく知れば、実際に認知症の人に出会った時の反応や対応が分かるし、介護をしてくれる人も増えるはずだ。

提案内容
学校で認知症についての授業をし、ただのボケ老人と思うのではなく、認知症という病気をもったかわいそうな人だと授業で取り扱ったほうがいいと思います。 そして認知症の人には認知症であることを示すものをもたせる。 それをもつことで他人に迷惑をかけても認知症であることから、変なことはされない。 カウセリングを受けることで、認知症のおじいちゃんおばあちゃんの介護に限界を感じ認知症の人をほったらかしたり、最悪の事態を防げるから。
★認知症マークを作る⇒おなかに赤ちゃんがいますみたいなマーク？トラブル防止につなげたい… ★運動や散歩ができる場所の増設⇒認知症には適度な運動がよいらしいので、安全に散歩などができるコースがある公園などをたくさんつくる。植物をたくさん植えてもよさそう。 ★パズルやまちがいさがしを市で売ったり、いごや将棋、かるたの大会などを定期的にひらく⇒脳トレになる！親睦を深める、コミュニケーション ★認知症の家族のためのカウンセラー⇒家族に忘れられてしまうつらさで気が病んでしまうつらさで気が病んでしまわないように認知症の人の家族のケアも！ ★小学校などで認知症について講座をひらいたりして理解を広げます！
認知症が起こる理由や、その他の認知症にまつわる様々な正しい知識をちらしやパンフレットなどにして多くの人に知ってもらう。 また、学校の授業などでももしも身近な人が認知症になったらどうするかということを学び考える学習の時間をもうける。 それによって実際に認知症とむきあうことになってもとてもあわててしまうことが減ると思う。 認知症の方の支援やかいごをしている人達のことを助けるヘルパーのような仕事を市でつくり、無料もしくは安い金額でかいごしている方々がやとえる制度をつくる。 また、そのヘルパーのような方々には市が給料をわたして、公務員の方々のようにすれば求人がふえると思う。
ポスターなどで認知症のことを多くの人に知ってもらう。 人の目につく所にはり紙をする。
認知症の人やその家族に対して正しい知識を身につけてもらうための講座を開く。 認知症で困っている人が簡単に相談できる窓口の設置
認知症の人のケアをしたり、介護するには、やはりお金がかかるため、その世帯に、介護認知症手当金などを、月5万～10万円配布するのが良いと思う。 また、少し1番にも関わってくるのだが、認知症を多くの人に知ってもらうために、学校に認知症についてよく知っている先生などが学校の教室にいき、そこで授業をする。 また認知症というのは色んな人がとても悪いイメージを持っているが認知症は一定の年齢を超えると、ほぼ全ての人がなるものなので、認知症の人を見たら助けてあげたりしてあげることが大切。 そして認知症をもっともっと知ってもらうために「認知症の日」みたいなものをつくり広める。 そうすることで少しでも多くの人に知ってもらい、同じ地域の方々に少しでも支援を受けられたり家族の人達も安心して暮らせると思う。
親しい人などと交流の場を作成する。 黄色の点字ブロックに交番までの矢印をつける。 認知症の人の家に毎日無料で100マス計算やクロスワードを配布する。 毎日コーヒー無料配布
県からの支援を認知症の人や家族に行き届くようにする。 看護師や保健師などが認知症のサポートをしていき他の人との交流の場所を作る。 認知症の人には言ってはいけない言葉がありそれを県や市や自治体で住民の人々に知らせる。
アイディア①補助金を出す。（今の予算は少なすぎてたりない。） アイディア②認知症専門の交番を作る。もし認知症の人がにげても交番の人が探す。 ※チラシはくばっても意味がほとんどでません。理由：ほとんどが捨てるので逆にめいわくだと思われてしまいます。
広告を出す（電車に出す） 認知症限定の介護老人ホームをつくる。 ふるさと納税がんばる。
・まず地域の人や家族に認知症のことを知ってもらう。→家族がそれを受け入れる広い心を持つ→みんなハッピー ・認知症の人にチームオレンジを知ってもらう→仲間を増やす！ ・小学生にも知ってもらうために認知症の人やその家族に大変なところなどを話してもらう。
・位置情報を共有できるサービスを提供する→外出したいときに家族の人がどこにいるのか分かるので安心できる ・認知症の人にとって快適な環境を保つための寄付金を出す→認知症の症状の進行を遅らせるため。
・地域の人の誤解や偏見をなくすために説明会を開く
認知症について学ぶ講座を開いて、みんなに直接伝える。 また、地域の小学校や中学校で認知症とはどういうものなのかをまとめたパンフレット等を作成し、それを配布する。 特に認知症の方の話などを上記のパンフレットや、社会科の教科書等をのせて子どもたちを中心に認知症がどういうものなのかを知らせる。 また、認知症のことについて知れるホームページを作成し、誰もが理解しやすいようにこうもくなどを工夫する。 認知症の方が集まって、集会をつくり、日々のつらいことや悩みごとを相談できるようにする。
認知症の治療やリハビリ？を無料でうけられるところを作る。 認知症にならないように頭をよくする。 お年寄りにむけた脳トレ（クイズ大会など）を開さいして頭を使わせて認知症から守る。 認知症を完璧に治す認知症専門医療をとかをつくって認知症の研究をする。 お年寄りに認知症のことをよく知ってもらう。
まず認知症を科学的に説明し、なる原因やどんなことが起こるかを学んだり、授業などの学校内で説明をした方がいいと思う。 なるべく認知症の方がわかりやすく、覚えやすくするためにあまり外見を変えなかったり、もし迷子になってもすぐわかるようにGPSをつけたらいいと思う。 そして家族全員で応援できるように遠い親戚などにも話し協力してもらう。

提案内容
病院や公共施設に認知症の対応方法や、どんな気持ちで毎日過ごしているのかを書いたパンフレットやちらしを無料で置いたりくばったりする。 できるだけ興味を引きたいので、四コママンガのような要素も含んであるといいと思う。 子供も楽しく読めるし… 置りたたみできる大きめのパンフレットなど。 まとめ：このようなものを市役所、病院で配る。またはパンフレットにしたり駅で配ったりするのもいいと思う。また、より見てもらうために待ち時間を利用して置いたり、配ったりするのが一番いいと思う。 ＜チラシの例＞ 認知病の理解 　私たちができること　改善方法など 　毎日どんな気持ちで過ごしているのか 　助けてほしいこと等 　当じ者にインタビューしたことを書いたり 　四コマまんがでその様子を
認知症の方の特徴や普段の服よく行く場所などをあらかじめ記録して、もしもいなくなってしまった時でもすぐに見つけられるようにする。 認知症やその方の介護でなにか困ったことがあったとき、辛い思いを打ち上げられるカウンセリングなどを作ってほしい。
認知症の人どうしや認知症の人の家族どうしで話し合うことができる場をつくる。 認知症の家族をもつ人が誤解や偏見をもちまわりからの援助がうけられなくならないように認知症に対する誤解や偏見をもっている人に対しての講座をひらく。 認知症は身近な病院であり認知症の人がまわりにいると思って生活していく。
ポスターを作る。 そのためのウェブサイトを作る。 認知症を理解しようとする。 知る機会を作る。 学校で習う。
認知症で道に迷っている人がいたらすぐに助ける。 認知症の人を助けることができる（受け入れることができる）家を作る。 地域の人がそれぞれ住んでいる家の一部を認知症を受け入れる（助ける）家とする。 その家でゆっくりと認知症の方の住所や家族その電話番号を聞き、家族の方に来てもらい安全にそして無事に認知症の方が自分の家へ帰ることができるようにすれば良いと思う。 マネーもかからないしかつ認知症の方も助かる。 最高。
認知症の人がいる家庭にアドバイスをしたり認知症の人のつきそいをする職業をつくればよいと思う。 認知症に関する悩みを聞いたり家族がいなくて1人になった時のサポートなどをして家族への負担を減らすことができればよいと思う。
1の事をして地域のたくさんの人が認知症の人やその家族を応援する。 認知症の人が身近にいるということを理解して生活をする。
認知症の人やその家族を応援するためには、その関係者同士で関わり持つというのはどうでしょうか？ いわゆる交流会です。 遠かったり、固いふんいきだと生きづらいと思うので、特定の日に〇〇公園で軽くお話し、専門の人がいたらよりよいかもしれません。 ですが認知所の介護もしつつでそんなに余裕が持てるのでしょうか？ あくまで想像ですが、何かあるたびにかけよったり、ずっとつきそっていない危なかったりもあるかもしれません。 そのような場合には、インターネットを通じて軽いお茶会などもいいかもしれません。 それなら、外出せず気軽にすぐできることも可能です。 つまり、私は交流会を開くのがいいと思います。 事情を知る者同士なら話もはずむし、心に余裕を持てるようになるかもしれません。
地域の小学校や中学生、幼稚園児、保育園児たちとの交流をして今の時代のことをよく知ってもらったり昔の遊びを今の子どもたちに教えることをする。 認知症の人の家族が1人で苦しみを持ち続けないように市がときどき様子を見に行ったり相談会みたいなものをつくる。 地域の人たちも「認知症」についての理解を深めていくことが大切だと思うので、認知症というものはこういうものでなってしまったらどうなるといった説明会のようなことを小・中学校でやるのはどうでしょうか。
この先どんどん少子高齢化が進んでいき認知症の人も増えていく。 つまり身近にそのような人が増えるという事になる。 ぼくはまだそのような人に会った事がないがそのような人を支えてもいる。 そういう人の気持ちを共感して未来の子へその事を言い受け次いであげる事が今の若者ができる事ではないかと思いました。
一回、認知症の偏見や先入観をなくして、認知症について学び（インターネットや本などなんでも）認知症についてみんなが正しく理解することができれば、表面のように誤解や偏見の目によって自分から「認知症だ」と言い出せなくなることが無くなる。 そうすると、自分から「認知症だ」と言えるようになって気持ちが軽くなる（人それぞれだが） そして認知症の人やその家族を心の底から温かい目で見守ることができるようになる。 つまり認知症の正しい情報をみんなが得ることが地域で応援することだと思う。
認知症の人の家に給付金と介護の人を送る。 病院をふやす。 店などに音声案内をつける。
また、認知症の人やその家族を地域で応援するためには認知症の人やその家族が何かなやんでいることや心配、不安なことを相談することのできる相談所をつくったり電話でも相談できる仕組みをつくったりすることが大切だと思います。
私はまず地域の人に認知症について詳しく知ってもらうことが必要だと思います。 まだ認知症について全然知らない人や知識がないために認知症について全然知らない人や知識がないために、認知症の方も周りも過ごしにくくなってしまうと思います。 そこで、知ってもらうために、認知症についてのポスターを作ったり、認知症について学ぶ機会をつくるのが良いと思います。 これらをやって認知症の人やその家族を地域で少しでも応援できたらいいと思います。

提案内容
地域の行事で認知症の人同士が触れ合う機会を作ったり認知症の人の家族がお互いの苦労を語り合ったりする機会をもうけて認知症の人やその家族の心が少しでも軽くなるようにする。 また、認知症の人やその家族だけでなく、身近に認知症の人がいない人もいっしょに触れ合うことで認知症の人やその家族の苦労やつらさを少しでもわかってもらえるようにする。 他には区内の小・中学校、高等学校に区の職員が認知症とはどのようなものなのかまた認知症の人やその家族が困っていた時どのように対応するのが1番良いのかということを教えに行き、地域全体が認知症の人やその家族の苦労やつらさを理解し支えられるようにする。
認知症の人をサポートするような場所をつくり認知所の人やその人の家族が安心して見守ってあげれるように一般の人も協力する。 認知症の人は大きな音、大きな声でだけでも大きなストレスを感じてしまうらしいので認知症の人が安心してすごせるような静かなところを設ける。
認知症の人は家族は全員が時間をとれるわけではないので充分な介護をうけれないこともあるしもし介護をできたとしてもストレスが多くなってしまう原因にもなるから、サービスで介護の手伝いをしてあげるのがいいと思う。
認知症本人と地域の人が一緒にあそんだり会話したりする。 なにかをきかくしてあそぶ。
認知症について学校でも授業をしたり、地域の掲示板などの認知症のチラシなどをはって、より多くの人に認知症について理解してもらう。 また、認知症の人やその家族を応援するために認知症の人の家族の気持ちなど、相手の立場や状況を想像して思いやりの心をもつことで、他人事としてとらえるのではなく、身近なこととしてとらえるようにする。
認知症を、よく知ってもらうために、認知症こうざなどを学校でするか、地域でかいさいすればいいと思う。 かいさいする時は、認知症への偏見をなくすために、認知症と普通の人の違いを解説すればいいと思う。 認知症の人を応援するためには、まず認知症へのへんけんをなくしたらいいと思う。
認知症の人やその家族を地域で応援するためにまず必要なのは、この地域に住んでいる人たち全員が認知症について意識したり認知症の人が少しでも楽しい過ごしやすい環境をつくっていかないといけないと思います。 少しでも認知症の人やその家族に手をさしのべれるように（協力できるように）私たちはこれからも正しい生活や思いやりを大切にすることが大事。 認知症の人の家族の人のつらさも日々実感しながら「こうすれば楽になる！」「こうすれば少しでも救える！」といった考えを持ち続けていきたいと思います。 また、もし自分が認知症の人と関わる機会があったら相手の思いやりや行動を改めて見直して認知症の人に最も適切なことを探し出したいと思いました。
学校や職場等では、認知症だということをかくすのではなく、逆にまわりの人に知ってもらうことで、まわりから適切な対応をうけられるようにする必要があると思う。 また、認知症だからといって、特別なあつかいをしすぎるのではなく、ある程度距離を保ちながら、困っているときには助ける、といった心がけをすることで、認知症者自身も、心おきなく生活することができると思う。 助けてあげるのはよいが、かまいすぎるとしつこいと思われてしまうということである。 認知症の人と自分たちとの間にカベを作っていしまうのではなく、関わりすぎず助け合うという精神を持つことで、おたがいによりよい関係を築くことができるのだと思う。 今、国内でも、認知症の人が活躍できる場所はたくさんあると思うので、今後の変化を期待している。
さいたま市内に認知症を説明して理解してもらうためのポスターを貼る。 市内の小学生や中学校で呼びかけ運動を行い、地域との協力をさらに深める。 認知症の誤解や偏見などを無くすために、スライドを作り、それを地域の方々に見てもらう。 新聞や、さいたま市の魅力を伝える雑誌などに認知症関連のコーナーを作り、毎週１回載せる。 動画を投稿できるＳＮＳなどで、市民の理解を身近なもので表現して、みんなにチェックしてもらう。 認知症の方々が、安心、安全に暮らせるようなさいたま市にしてほしいと思っています。
認知症に関する講座を定期的に開く。 また認知症の人がどれくらいの割合でいるか、や認知症の人を手助けしたり、認知症の人とふれ合うことで認知症についてたくさん知ることができると思う。 また、街中に「認知症とは」のようなポスターを作成し、けい示していけば良いと思う。 また認知症の人を応援するにはその家族などが講座に講師として出席していただいて講演をすればよいと思う。 また認知症の人の脳の病気を軽減または完治させるために募金活動を行っても良いのではないかと思う。
認知症がというものは、脳の機能が低下してしまう、こわい病気ですが、気味悪がったり、偏見を持ったりするのはやっぱり良くないと思います。 また、その家族のことも、「認知症の人がいるから近よりたくない」と嫌がってさけるのも良くないと思います。 認知症の人やその家族を地域で応援するためにはまず、認知症の人たちへの偏見を持つのをやめて、支持できるようにしないといけないと思います。 そのためには、「認知症の人たちも自分たちと同じように人権を持っている。偏見を持つのではなくて、助けてあげなければいけない。」という意識を共有するのが大切だと思います。 ポスターなどを作り、認知症の人や家族を応援できるようになればいいと思っています。
認知症の人の家族などであつまって、どんなところで困っているのかを話してもらう。 それで、自分の身の回りの人が認知症になってしまった時に、その経験が活かされるし、認知症の人の家族の人は、意見を聞いてもらえて、ストレスなどがやわらぐと思うから。
・ボランティアで支援をする特別授業を設ける。 ・看護したりする人を呼ぶお金をその家に配る。 ・優先席に優先的に座らせたり、専用のトイレなどを設ける。
父が「認知症サポーター」であり、職場でも福祉関係のことについて行っていて、聞いた話だが、若い人があんまりいないと聞いたことがあるので、若い人にも気軽に活動に参加できるよう、フェスなどをもうけて、認知症の人と交流したり、「認知症サポーター」の増加を目指すべきだと思う。 認知症にも、若年認知症など様々な病状があるから大きなくくりでまとめることはせず、その症状にあわせた取り組みをもっと考えた方がいいと思います！ また、さいたま市は政令指定都市ということで県の方針に沿うのがおそくなるときがあると思いますが、県との連携を強化して、認知症事業にとりくむべきだと思いますね。 私一人の意見ですが…。
認知症の人専用の老人ホームのような施設を作りそこで、認知症の方が安心して暮らせるようにして、認知症の方の回復をその施設で行う。 また、認知症の方をたくさんの人が応援できるようにするために、様々な演説やＣＭで認知症の人を理解できるようにして、ぼ金活動などを認知症の方の支援に使う。

提案内容
認知症の人やその家族が認知症をかくすことなく行けるようなカフェ、図書館などをつくって、認知症やその家族、認知症でない人も関わることができるような場所ができたら良いと思います。 そのような場所で色んな人が関わり合うことで認知症のことをくわしく知ってもらうきっかけにもなると思います。
認知症の人たちでも働くことができるような仕事を認知症の人たちには提きょうする。 小学校・中学校・高等学校などで、認知症を正しく理解してもらうためのセミナーをひらく。
認知症の人をサポートする施設を無料で国や県、市が運営する。認知症の人に対する偏見をなくすようなＣＭなどで流す。
認知症の方へ、食べ物や日用品の支援をしたり、地域の子どもがたまに遊びへ行き、子どもふれあう時間を増やす。 家族は大変なので、支援金などを送る。 手先を動かしていたりすると、認知症の症状が軽くなると聞いたことがあるため、認知症の人と付き添いの人を連れて、ぬい物教室などを開いたりする。 まず、そもそも市役所の役員が認知症の人の現状を知る為、家を訪問してみたりする。
認知症の方も住みやすい町をつくるためにまずは、偏見をもたないことが第１歩だと思います。 そのためにも１でかいた、正しい情報の共有を積極的にしていくのが良いと思います。
認知症を様々な人が理解できるようなばしょをもうける。 理解することにより、認知症のつらさがわかるので、応援する気もでてくると思った。 応援方法は同じような人があつまるばをつくる。 これにより認知症の人も生きる活力がでてくると思う。
僕は認知症についてしらないのでボケや記憶そう失のようなものだと思ったのでその家族や認知症の人や家族を応援できると僕が考えた対策を書きます。 認知症の人本人は憶えていないといけないことを忘れてしまうのだと思います。 のでメモ帳とシャーペンやボールペンなどの書くための物を持ち歩き忘れてしまってはいけないことを書いて、外出中ならズボンのポケットやかばんの中、スマホケースなどにはったりしまっておいたりして、家の中ならかべにはったりしたほうがいいと地域の方が言ってあげて、その方法を忘れたらまた言ってあげればいいと思います。 また認知症の人の家族に時々会いにいったりして、少しでも助けられることをして少しでも認知症の人を気づかえるように支援をしたほうがいいと思います。
やさしくせっする。 老人ホームにいれる
年金を増やし、介護施設などに行くための費用をまかなえるようにする。 そのためには思いやりと増税などの受け入れが必要。 老人達は定期的に、学習をし、認知症などの症状をやわらげることをする。 高齢化社会の今、若者を増やし社会の発展などにする。
老人ホームをいっぱいつくればいいと思う。 また、認知症の人だけつけるようなマークでも作ればいいと思う。 また、認知症の人には付きそいの人が一人か二人は必要であると思う。 また、認知症の人のことを様々な方向から理解することが必要であると思う。
・老人ホームのようなものをつくる。 ・近所の人達と仲良くふれ合う。（近所の人が手助けをする） ・ほじょ金をあげる
お金を支給する。 ホームヘルパーをつけて、かいごしてもらう。 認知症の人にやさしい町づくりをする。 介護センターをつくる。 周りの人たちが理解して、やさしく接っする。 病院の値段を安くする。
認知症の人でも楽しめるようなイベントを開さいして、楽しんでもらう。 認知症の人の家族の負担を減らせるような取り組みをする。 地域全体で優しく接する。 ぼ金などをしてもらい、認知症の人の老人ホームを作る。 認知症の人に経費を支給して支援する。
認知症の人の家族だけが世話をするのではなく、その周辺に住んでいる人や近所の人たちが協力してその人の世話をしたり、当番せいで世話をするなど、認知症の人の家族だけに大変な思いをするわけではなく、地域の人全員で協力するべきだと考えています。
・自分たちだけでも何か手助けをする。介護しせつを増やすべきでは？ ・お金があればすぐしせつに入れる。 ・認知症をよく知る（インターネットなどで調べる） ・道でこまっている人がいたら出来るかぎり手助け。
認知症の人専用の病院やしせつをつくり、毎日認知症の人が通うことができるようにする。 認知症の人があそべる環境をつくる。 認知症のしょうじょうをおくらせるために、薬を作る。 そのため医学を応援する。
・市内や町内で認知症に関する説明会をする。回覧板でも良い。 ・自分で興味を持てるように、説明会を開いて参加してくれたら、特産物などを参加賞として、あたえる。 ・認知症の人の生活を知る。
ピクトグラムのように「ここは〇〇」「ここは△△」と表す記号を使ってみるといいと思う。 家族などには家で名札をつけるなど。
認知症を正しく理解するためには認知症の人に実際に会って話したりすることがいいのではないかと思います。
国家予算でしせつを作る。
認知症の怖さや、認知症に関係する内容を記したポスターやＣＭなどをつくったり、お年寄りが気軽に参加できる町内会や交流できる場所を整備したりすることで人と人との関わる機会を増やす。 小学校などで認知症について学ぶ機会（認知症の人がいる家族や集団を呼んで）をつくる。 誰でも気軽に（個人情報などを出さずに）認知症について知れるホームページをつくる。
財源確保のために増税。 有名なＳＮＳのインフルエンサーにお金を大量にあげて配しんしてもらう。

提案内容
認知症の人が間違えた時、きつくとがめず、しょうがないとだきょうしつつ、やさしく間ちがえを教えてくれると、相手は納得するし、悲しくならないと思うので、やさしく間ちがいを認知症の人に教えたり、大丈夫だよと、声掛けをしてあげる。 大事なことは何回もおしえたりすることが出来ると思います。 認知症の人も大変だと思うのでかってにきめつけず学んでいきたいです。
むだなことに使われる税金を減らし、その分を社会福祉のお金に割り当てる。 それでも足りない場合は、経済をインフレにする政策をし、平均年収を上げ、世の中に流通するお金の量を充実させ、認知症のかいご者の給料を上げ、その職に付く人を増やす。 また止むを得ない増税を検討する。
認知症の人の用事を書いたノートをわたす。
地域の人々が認知症について知り、その大変さを理解出来たら良いと思う。 身内に認知症の人がいる人の話を聞いたり、実際に会ってみるのが良いかもしれない。 でも理解ができない人は、他人事だと思って、認知症の知らない人を応援なんてしてくれないと思うから。 地域の子どもには認知症やその他の人の介護に携わる職業の見学のようなものができたら良いと思う。 道徳の授業などで積極的に認知症についてとりあつかっていっても良いと思う。 自分の親が認知症になったときを考えさせたり、自分の周りの人が認知症なることを体験するまで待つのも一つだと思う。
ボランティアを集めて少しでも認知症の人とふれる機会をつくる。 また介護の仕方の講座などを行う。 認知症の人の家族と交流する機会をつくる。
施設をたてる。
私のひいおばあちゃんが認知症です。 孫である私の母の名前も忘れてしまっている事実を知った時は驚いてしまいました。 食事をするのも一人では出来なくなってしまっているので、やはりヘルプをする方がもっと必要だと思います。 そういう方を増やすためにも、月に一回（仮）、老人ホームで認知症の方とふれあえる機会をもうけるのはどうでしょうか。 子ども達が認知症の大変さを知ると共に、認知症へのへんけんを無くすことができると思います。 またいっしょに遊ぶことで認知症の人も頭をつかえるキッカケとなるので、認知症の促進をおさえられるのではないでしょうか？ あと、認知症の方のご家族の方も、老人ホームへ足を運びやすくなると思います。 　老人ホームでのお祭り（仮）①子どもたちが来る。②認知症の方とのお話や遊び。
ぼくは幼い頃一度母に「認知症になったらどうなるの？」と聞いたことがあります。 そうしたらぼくの母は「おばあちゃんは認知症だったんだよ。」と教えてくれました。 認知症だったぼくのひいおばあちゃんは、ぼくの母のことが分からなくなったり、2つのことを同時にできなかったりして、とてもお世話をするのが大変だったそうです。 また認知症になった人は常に1人はついていないと危ないので、その人は仕事ができなくなります。 仕事ができなくなるのは本当につらいことなので、その市や町の手が空いている人たちで認知症の人をお世話するボランティア団体のようなものを作ると良いと思いました。
にんちしょうの人がまいごにならないようにするために道具を見やすくしたりかおが分かるように地域の人との交流をふかめる。
認知症の人と地域の人で共に遊べるようなぎょうじ（百人いっしゅかるたとか）を開いたら良いと思う。
認知症にもし自分がなったら「認知症だから助けてあげる」という事を聞くと、悲しくなるし、助けてくれる、善意に感謝したい気持ちもあるため、複雑な気持ちになる。 そこで、妊婦さんが付けているマークと同じような目的で、マークを作る。 それには、妊婦ですとか体が不自由ですなど何も書かずただ助けを必要としていることが伝わる、マーク。 それを身に付けることで、病名や、その病気だから助けてもらうということで病名やその病気だから助けてもらうということを気にせず、ただ助けてくれたということに感謝できるため、そのようなマークの意味や目的も兼ねて普及させる。
認知症の人が入る専用の施設をより多くつくったら良いと思う。 しかし、費用や認知症のレベルによって施設に入れない人も多くいる。 だから、認知症の人への正しい接し方やトレーニングの仕方などを医者や看護師が認知症だと自覚した時点で、その家族に教えてあげたら良いと思う。 また、教育の中で認知症の人について教え、認知症の人を突き放すのではなく受け入れるという考えをより多くの人に広めたら良いと思う。
もし認知症だとしても、認知症だと自覚していない人もいると思うから、検査を積極的に行う。 認知症と診断された時点で、ヘルプカードのようなものを配り、バッグなどに付けてあげ、名前や住所・電話番号などを書いておけば、もし迷子になったとしても、家に帰れると思う。
認知症の人も、自分を全否定されて、施設に入れられ、ひどい扱いをうけるのは嫌だし、住み慣れたところで暮らし続けたいと思うため、認知症になったから、いつもと違う対応をしないと、ではなく、いつものように、声をかけたり、交流したりすることで、病状も安定すると思う。 そして、家族の人たちも大変だと思うので、見守りながら、本人にも、気に掛けてあげて、身近に認知症の人がいたら、持っている力を最大限にほめて、一番楽しく暮らせる環境をつくるのが大切だと思う。 あと、認知症の人や、子どもたちが気軽にふれあえて、気持ちがなごむような環境もつくったらいいと思う。
入院費を補充することよりも世話をしてもらうヘルパーさんの給料を県が払って家庭に向かわせる方がやっぱりお世話するっていうのは何においても生活で一番大変だと思う。 それでヤングケアラーが生じるわけだから、そうするのが一番いいと思う。
○施設をつくる⇒・認知症の人向けの講座（少しでもなおるように） 　　・認知症の人と一緒に会話するスペース ○ポスターをつくる ○ツアーやイベントを開催する⇒認知症の人も楽しめるような ○認知症の人やその家族に「こうしてほしい」など意見をきく
認知症の方が家族にいる人たちのストレスがたまらないように、定期的にカウンセリングを行う。 認知症とは何かを正しく理解するために、小学校や中学校の道徳などの授業の中に、認知症についての内容の授業を取り入れる。 その人が認知症かどうか分かりやすくするために、バッチやキーホルダーのような周りから分かりやすい印のようなものを作る。⇒周りの人が認知症の人を手助けしやすくなる。

提案内容
・認知症の人たちと一般の人たちが同じ場所に集まって、小さな悩みやうれしかったことなどを共有する場を設ける ・近所の人たちの交流をふかめるために、一緒に掃除したりする ・近所の人たちと、子供から大人まで遊べる簡単なスポーツができるような所をつくる ・認知症の人が安全に住める街にするため、あぶない物をとりのぞく ・認知症の人が迷子になった時のために、分かりやすい地図を街のさまざまな所にはる ・認知症の人が子供たちに裁縫などを教える。
認知症は人によって症状もそれぞれ違うため、一貫して認知症の人の生活をすべて手助けしようとするのではなく、認知症の人はどこまでできて、できないのかを知り、その人の個性として認め、「共生」の認識を広めることが大切だと思う。
まず認知症とはどういったものなのかを多くの人に知ってもらえるようにし、その理解を深めた上でもし認知症の方に出会っても偏見や相手への誤解を減らす。 それによってどんな人とも仲良く楽しく接することができるのでそこから発展して地域の人との輪を広げ、認知症の方に対しても温かいまちを作っていく。 なので認知症について知ってもらえるよう、ポスターや冊子などで周知したりそのような講座をつくったりする。
・認知症についてのポスターを作成し市役所に掲示する。 ・自分で「認知症」だと分かっている人に直接話を聞く。 ・認知症についての授業を学校で設ける。 ・認知症の人やその周りに人に困っていることを聞きそのことをポスターにまとめ掲示し解決策を考える。 ・認知症の人の世話が大変なので近所の人が買い物に行ったりとできることをする。
・認知症についてあるていどのことを知っておく→ネットなどに掲載←（埼玉県の公式ホームページからので出すと安心） ・認知症の人を助けるために仕事を休めるようにする。←産休みたいな感じにする ・認知症だからといい特別扱いはせず、ケアをしながらゲームや趣味ができるような環境をつくる。
認知症の人たちが集まって交流できる施設や、認知症の人は全員ではないのですが判断力などがにぶってしまっているためそれをいかして何かを忘れれば忘れるほどいいゲームなどを作ったらいいと思います。 AIで話し相手になるアプリをつくる。
みんなでコミュニケーションをはなす
Newsに番組入れたりテレビのＣＭをやる
認知症になった人とその家族の結びをわすれないように思い出となるものをたくさんつくれるように協力する。 家族の声をきき一緒に考える。
認知症の人のまわりの人たちが、認知症というものを理解し、ほかの人たちにも伝え、理解してもらえれば良いと思います。 地域の人たちにも誤解や偏見をなくすために、認知症というものを知ることができるところを作り、理解することで、地域で応援することができると思います。
認知症の人が過ごせるしせつを作る。 交流の場をつくる。
認知症の人たちだけが集まって通う施設を所々に建てて認知症の人もその家族も心配せずに過ごせるようにする。 認知症の人の服などにGPSをつける。
介護のためにヤングケアラーなどが増えないように老人ホームを増やしたり地域の人々で協力する。 また老人ホームを支援する。
周りから優しく接して日ごろあまり認知できてない人もできる環境にする。
認知症の薬をとうよして進行をくい止める。
認知症の人から直接話を聞く施設、時間を設ける。 認知症の人の生活をサポートするようなボランティア団体をつくる。
認知症への理解を深めるために地域で交流会をひらき認知症の人やその家族に対する偏見をなくす。 認知症の人の介護がその家族の負担にならないよう家族が仕事に行っている間に代わりに介護してくれるヘルパーの制度を充実させる。
認知症の症状をくわしく説明したりテレビで放映するなどしていろいろな人に認知症について知ってもらう。 地域での集まりを増やして地域のつながりを強める。 特定の人だけ介護するのではなく、みんなで介護し介護する人の負担をへらす。
介護施設をもっと多く作りしせつで面倒をしっかりと見て老人にやさしい社会をつくる。
認知症の人が集まるしせつを作りそこでケアマネージャーをやとって認知症の人の心のケアや身の回りの手伝いをしてもらう。
・認知症の症状や認知症になった人のリアルな気持ちを地域に広く発信し、地域住民に「応援したい」と思ってもらうきっきけにする→そのためのイベント等を考える・つくる。 ・上記のことを実行したことによって認知症の人を応援したいと思った人が実際に支援ができるようなしくみをつくる→募金など
やさしい目で見る。
認知症の人とその家族の人達をケアするために期間をちゃんと設定して定期的に訪問したり、電話をかけたりする。 最近は認知症の人をかいごしていた人が自ら亡くなってしまったり、たがいに亡くなってしまったり、する事件もよくあるので認知症の人だけではなく、そのまわりの人々を気にかけることにも力をいれたほうがいいとおもいます。 そして家族だけではなく地域の人たちにも自分が認知症だと知ってもらえると困っているときに助けてもらったり、地域の団結力も強まったりするのではないかと考えました。
認知症の人を配慮しそのための施設や行事を行う。
認知症の人をしせつに入れる料金を安くする。
これから少子高齢社会が深刻になっていき高齢者が多くなってくると思います。 そうなると認知症の人も多くなると思います。 認知症の人は悪ぎはなく人に迷惑をかけてしまうのでとても大変なものだと思います。 私のおばさんもなっていて、私の母が窃盗したなどと被害にあっています。 された人はいい気分ではないです。 なのでその様な人を少しでも減らせるように、認知症防止の講座や、頭を使うものなどできるようにしていくのがいいと思いました。 そして、認知症の人を少しでも減らして、被害にあう人が減ったらいいですね！

提案内容
認知症の人が増えていてこれからも増え続ける今、認知症の人のことをよくしるために認知症の人をかいごしている人の話をきけるような場をつくったり学校等でそのような機会をもうける必要があると思う。 認知症のことを知らないことでは認知症人やその家族を地域で応援することもできない。 そのため認知症のことをよく知る機会をつくりまず認知症のことを正しく理解することで認知症の人やその家族を地域で応援することができると思う。 その上で認知症の人の家族等とかかわりどうしたら応援できるのかを考えるべきだと思う。
認知症の人やその家族同士で交流できる場をつくりお互いに関わり合いながら生活することで自立していくためのきっかけや家族同士で相談し合ったり情報交流ができるようにする。 さらに定期的に専門家を招き気軽に相談できるような環境を整える。 現代で技術が発達しているインターネットを用いてＳＮＳでの広告やインフルエンサーなどと協力して若い世代にも気軽に理解できるようにする。
・認知症の人の家族を対象とした説明会等を開く ・認知症の家族に給付金を与える ・認知症の人の家族に対してカウンセリングをする ・認知症の家族の悩みを解決する機会をつくる ・認知症ではない人に認知症について学べるようにする→店などでの対応など ・公共交通機関での優遇措置 ・公務員の方々や医療従事者や本人の家族にアンケートをとるべきだと思う。
認知症だけでなく介護のことを知ってもらう。→具体策を考えさせて頂きました。 ①市で任意の検査を行い要介護1のご家族には老人ホームへの入居検討。要介護2～のご家族には特養の紹介、入居の検討をうながす。相談窓口を設置する。 ②要介護1程度の親を持つ子育て世帯への介護セミナーを市で行う。（子育て世代は介護に関する知識が少ない方も多く、いざ自身の親がなってしまった際に動けばどのように良いのか分からない人も多い。）事前に知っておくことでその後の対応もとりやすくなる。 ③子供たちとの交流。小学生～中学生が実際に老人ホーム、介護施設を訪れてその実際の実情を知ってもらう。（入居中の方のインスピレーションにもなります。）これを機に介護にもっと関心、興味がわくきっかけに。 ・「認知症」という病気に関わらずに「介護」のことをもっと知ってほしい。 病気の知識のみあってもそれにどう対応すれば良いのか分からなければ元も子もない為。 高齢化社会の中で正しい知識を身につけることが大事だと思う。
認知症の方々にGPSを付けて行方不明になる心配を無くす制度をつくる。（家族のみが分かる） 認知症の人が暴れないように息抜きができるようなごらくを用意する。 →楽しいアプリ →地域の人と関われる行事 →趣味を見つけてもらう。
認知症の人がいなくなれば賞金をつけてもよいから（ないほうがよい）アナウンスする。 認知症の人がいる家に介護費50万円与える。
学校などで道徳の授業の時間を用いて認知症の学習をし、認知症と認知症の人々についての理解を深める。 また定期的に市や県が会社、学校などが参加できる認知症についての説明会のようなものを開く。 それらの活動を行った上で認知症の人々への支援を自ら考え市民や県民の意見を自治体として取り入れていくようにする。 例として高齢者が行きやすい場所に標識や地図をたくさん設置し道を分かりやすくする。 地域の人々に呼びかけて認知症の人々を助けるよう呼びかけるなどの方法があると思う。
認知症を正しく理解するために市で認知症についての説明会や学校の特別授業などによって認知症への理解度を高める。 そして認知症の人が過ごしやすいように分かりやすい地図・マークを作って応援する。
認知症の人と一緒に暮らす体験をし認知症の人との関わりを知りたくさんの人に分かってもらえるようにする。 認知症の人が一人で出ていってしまったときに備えてGPSをつける。
・認知症について「知らない」ことが認知症の人やその家族を傷つけることになるかもしれないし間違った行動をしてしまうかもしれないから、まずはまちのみんなに認知症について知ってもらう。 →①市のイベントでとりくみを紹介する場を設ける ②街中のデジタルサイネージ等でとりくみを紹介 ③ＳＮＳに投稿する ④クイズやゲームを通じて楽しく知ってもらう ・「認知症サポーター養成講座」に参加する人を増やす →①特典をつける ②企業と連携してイベントを組む ③祭りなど人が多く集まる場所、時間で開催する ・認知症の人に配慮した町づくりに協力してくれた個人・団体に印や謝礼をおくる
・認知症の人との思い出やもし家族が認知症になったらなどについて書く作文コンクールを小中学校で市が主体となって行う。 ・身体の不自由な人のためのバリアフリーだけでなく認知症の人が暮らしやすいように例えば多くの情報がまとまっていると認知症の人は混乱してしまうため、情報を1つずつバラバラに段階的に伝えるなど認知症の人のためのバリアフリーを目指す。
・高齢者が多い地域で認知症の人を支援する拠点となる施設をつくり認知症の人やその家族のところへ訪問して支援をする。 介護などに携わる民間の企業とも協力する。
認知症の家族の介護でつかれる人を減らすために、介護のボランティアをつのったり、介護士の人を市でやとったりして認知症の人がいる家に派遣する。 認知症になると徘徊をする場合があるからパトロールのてっていをする。 認知症にならないために65歳以上の定年で退職した人たちが交流する場をつくる（人とたくさん交流すれば認知症になりづらいときいたことがあるため）
認知症の症状およびその危険性についての広報活動を行い人々にその重大さにきづいてもらう。
認知症の方の子どもや孫たちと会う機会が増えれば認知症の進行も遅れると思うので長期休みで帰省しやすくなるような割引を行う。
少子高齢化により高齢者は増えている一方、介護士の数はその労働に対して賃金が低いことなどの理由からあまり増えていない。 まずは県または国による支援等を行い、介護士の賃金を上げることが大切だと思う。 また家族のうちの誰かが認知症になった場合、どのように対応していけばいいのか定期的に地域で専門家による講演を行っていくべきだと思う。 現状、認知症患者も支援できる人の数はあまり多くないため、少なくとも認知症患者の相談窓口を開きアドバイスをしていけばその家族の不安も軽減できると思う。

提案内容
電車、バス、船、飛行機、タクシー、モノレール、道路、歩道、横断歩道などで認知症の人をおかしいとし、盗撮する人などがいる（前述にあるものはすべて実際にあったケース） これは認知症を知らない（不審者かもしれないと思っている）人もいるかもしれないが大半は知っていながらふざけて（面白いネタになるかもしれないと思っている）いる。 なので理解はもちろん、軽はずみな行動で理解を生かさないのは良くない。 よって理解を正しい方向で応援することが重要だと思った。
認知症についての講座を開きみんなが認知症について知りそれを受け入れることができる社会を作って行くべきだと思う。
小学校のような体を動かしたり、それぞれのレベルに合わせた活動をしたり、たくさんの人と同じ食事を食べたりすることができる施設をつくると良いと思います。 そうすることで人とコミュニケーションをしたり、手先や脳を使う活動をしたりできるので認知症の人だけでなく認知症になることに不安をもつお年寄りの人達にも利用してもらえると思います。 また、送迎のバスなどをつくることで家族の負担を減らすことができ、老人ホームのように1日中そこで過ごさないことで家族と過ごす時間を確保することができると考えました。
認知症の家族が地域の人々と一緒に親睦会を開く。 これによって、認知症の家族のストレスを緩和する。 認知症の本人も参加できるようにする。 認知症の進行も遅くなるかもしれないし思い出づくりにもなる。 また親睦会は本人や家族を傷つけないようにする。
・過去に認知症の人が家族にいた人や現在認知症の人が家族にいる人などが一緒に話せる場所をオンライン上などでつくる。 ・インターネット上で情報を発信していつでもいろんな人が情報をみれるようにする ・公共交通機関での優遇措置をとる ・認知症の人がいる家族に直接意見をきいてみる ・医療従事者に効果的な方法をきいてみる。
老いによる認知能力の力の低下を若い世代（僕らも）に理解してもらうために完全におちきる前の段階で子供とのふれあい活動を行うことを提案します。 なぜかというと以前僕の祖父がすこしボケてしまったときに多くの知り合いをおもいだすこと、経験について思い出すのにも時間がかかっていました。 しかし僕や家族とともに旅行にいったなつかしい思い出をとても鮮明に思い出すことができていました。 このように人々、心に深く刻まれた思い出は忘れません。 なので人のやさしさにふれるけいけんをすれば誰にでもやさしくする心を忘れないと思います。
商業施設や病院、電車などで、認知症の方やその家族の「優先スペース」をつくり、どうしても認知症の方と接するのが難しい人にも納得がいくようにする。 但し、「認知症の方やその家族用のスペース」としてしまうと、認知症の方やその家族が他人の目を気にして入りにくいというこもあるかもしれないので、「認知症の方やその家族優先スペース」とすることで、あくまで優先なのでそれ以外の人も入れるということを強調する。 また認知症の方の家族が大変だと感じることが多いと思うので、その人達限定で家事や世話の代行サービスを無料にしたり、心理カウンセリングを無料でうけられるようにする。 さらに、地域の人に認知症の方を認識してもらうことも必要だと思うので、認知症の方にはキーホルダーのような目印を身につけてもらう。
認知症についての理解がないと周りからの誤解をうむことがある。 認知症の人が犯罪を起こして、裁判での冤罪も防がないといけない。 ですから、認知症を正しく理解することが必要があると私は思う。 正しく理解するために日頃から小中学校で介護士やケアマネージャーが学校に来てみんなに話す会を開いたり、義務教育の一環としてみんなに知ってもらうべきだ。 また国の政府や市の市長なども認知症の人がいる家に給付金を配ったり、経済的な面から援助した方がよい。 これからますます高齢化していく日本社会で、認知症患者もふえていくことが予想される。 今から認知症をどういうものか子どもたちが知り、偏見のない社会にした方がよりよく過ごせると思う。
認知症の人やその家族を地域で応援するためにはたくさんの人に認知症を正しく理解してもらう必要があると考えました。 まず「認知症サポーター養成講座」に行く人を増やすために、これらのポスターを作成したくさんの人が訪れるであろうコンビニやバスなどで貼って欲しいです。 そうすれば「認知症サポーター養成講座」に足を運んでくれる人が少しでも増えるかもしれません。 認知症は何もできないわけじゃないと知る人も増やしていきたいです。
・老人ホームやデイサービスの数を増やし、その家族にも給付金を出したら良いと思う。 ・認知症の本人たち、その家族たちが集る場所を開き、それぞれの経験を共有し本人も家族も暮らしやすくなるような色々な意見を聞ける場をもうける。 ・デイサービスなどに完全に自由な街の空間を作り、数日に1回それぞれ生きたいように生きてもらう。店なども忠実に再現する。 ・その家族に向け相談窓口やカウンセラーをおく。
認知症の人やその家族を応援するためにはまず周りからの理解を増やし認知症の人への偏見をなくして積極的に助けてあげることが大切だと思います。 大げさな話だと市が認知症の人にお金や車などに認知症だと分かるマークをあげてもいいと思います。 まずは町中に分かりやすい記号をつけたり移動が楽になるようなバリアフリーを充実させるのもいいと思います。 そして認知症の人に関するチラシやwebサイト、ＳＮＳ上の広告なども増やして認知症という病気に対する認知や理解を深めて行くことが大切だと思います。 そして障害者なども含めて認知症の人などを普通の人間と区切らず同じ人間なんだとと言うことが分かればいいと思います。
まず認知症に関する知識をさまざまな方面に広げることが重要だと思う。 例えば、積極的に広告を出して認知症の知識を紹介したり、これから社会を担う若者にも親しみやすいように、その時代の流行に合わせて広告を出していくなどがあると思う。 また、広告以外でも認知症の人にも考慮されたバリアフリーのデザインを普及させて、介護者の負担を減らしたり、介護者への支援または養成などを行うことで状況が改善されるのではないかと思う。 さらに、介護者だけでなく、一般人にも認知症に関する講座を行うことで地域全体の感心を高め、正しい理解を得ると同時に認知症の人やその家族を応援することができると思う。
認知症の人やその家族を地域で応援するためには、駅前で募金をしたり、コンビニなどの所に募金のboxをおいたり、チームオレンジというものを知らない人が多いのと、チームオレンジを県でサポートし、給料をだして仕事がない人にやってもらうこと。

提案内容
認知症である人々との交流会を開き認知症の大変さや不便さなどのデメリットを教えてもらう。 交流会を開くことができない場合には公立または私立の小中高等学校に特別授業として話をしてもらう。 さいたま市にいる認知症にかかった人々に寄付をする。 口で物事をつたえるのではなくメモやふせんに物事を書いて伝え易しく接し道案内などで手助けをする。 判断が鈍っているので何度も大きな声で繰り返し語りかける。 認知症のためのバリアフリー化やユニバーサルデザインを進める。
認知症をかかえているとやはり人と人との距離が遠くなってしまうと思う。 なので週一町内会などを企画した紙芝居をすることを提案する。 しゃべる機会がないと忘れてしまうことが多くあると思うので紙芝居を読んだりきいたりすることで地域の人とコミュニケーションがとれると思う。 紙芝居ってただよむだけでなくその主人公の気持ちをのせたりすることで自然に相手との心の距離が近くなると思う。 他には日々あいさつすることが大切だと考える。 挨拶しても忘れられちゃうと思うのではなく覚えてもらおうと元気にあいさつすると良いと思う。
そして、多くの人が認知症を正しく理解できているという状況をつくった上で、認知症の人やその家族を地域で応援するために、まずは認知症の人やその家族などの人が、気楽にそれぞれのなやみを話すことができる場を設けたり、すでにあるものを改善したり規模の拡大などをして、その次に、そのような場で話される意見などを市が聞いて、その意見などをできるはんいで実現し、市と市民が協力して、市民が生活しやすい市を作っていき、それをできるだけ続けて、良い市を作っていくというようにしたら良いと思います。
僕は、認知症の方の体験をまとめたパンフレットを作成し、市の小学校や中学校で配布するべきだと思います。 理由としては実際の声を聞かないと身の回りで認知症の方がいたとしても適切な対応をとることができないと思うからです。 また、認知症の方が家族に居て介護を行う際に介護を行う人が仕事をしている場合、仕事と介護の両立が難しく悩みが多くなることがあると思います。 そのような事例に対応するために気軽に認知症の方を介護していて困ったことなどを相談できる項目を市のホームページに導入してみるといいのではないかと思いました。
認知症の人が集まり好きにできる土地をもうけ認知症の人の街をつくる。 たまに何か思い出したらそれを紙に書いてその人の家族に送る。 また「認知症です」と分かる何かを認知症の人につけてもらい行方不明になっても見つけられるようにする。 こんろなどの火がついたまま玄関から出たら自動的にスイッチが切れるシステムをつける。
・チームオレンジの宣伝をする。例えばチラシやポスター、CMなど。 ・認知症の人と地域の人との交流会みたいなものをする（町内会みたいな） ・地域の小学校で認知症の人達の話を聞いたり話したりする機会をつくる。
・認知症の人は記憶力や判断力が低下して、自分の状況をうまい言葉で説明できないのだと思う。 →困った時や、してほしいことを絵で描いたカードを持たせてあげる。 　「介護や仕事でカードを書く時間がない」という人も多いので、「どんな絵を書きたいか入力すると自動で絵が出来上がるアプリ」を使ってコンビニでコピーできるようにする。 ・介護をしている人が、患者さんとの関わりで困った時に対応に困るかもしれない。 →「自治体を超えて体験を共有できるサイト（色々な人が投稿できる）」新設したり病院で紹介したりする。
認知症の人の家族がその人と一緒にいられないときにその人と一緒にいられる人の候補を決めておく。 公共の場所でのポスターや呼びかけなどで周知する。 子供から大人までいろいろな人が老人ホームなどの施設を通して認知症の人との交流を深める。 その地区での定期的なコミュケーション・交流活動をする。
なるべくその地域にどのような人がいるかを把握する。 そのために週一、月一などでいいからいろいろなイベントにコミュニケーションを取る機会を作る。
・認知症の人が、自分の家族のことを忘れたりした時、家族はとても悲しくなったり、介護を頑張っているのに結果は自分の努力は報われないと考えて辛くなってしまったりしないように、家族の心のケアをできるカウンセラーを病院に設置する。 ・認知症になった人に対しても、強く厳しく当たるではなく、昔の思い出（？）など楽しかったことを思い出させてあげるなど、とにかく優しく接せる環境をつくる。 ・病院にインタビューしに行く機会を設けてもらう。 ・認知症のくわしいことを授業形式（リモート）で学校と連携して行う。
認知症のマークのキーホルダーを作り、バックなどにつけてもらえば、周りの人から意識されるので危険が減るし、迷子になったりしても見つけてもらいやすくなって安全だと思います。
・認知症の人がいる家庭に、半年に1回認知症の人のためのパズルを配る ・認知症の人のための施設を増やす ・認知症の人を1日ごとにあずける施設を設置する。
①認知症の人を介護できる精神科病院や施設を増やす。認知症の人の介護はとても大変なので、まわりの人々や家族が介護すると、介護している人もつかれて心のやまいになってしまったりするため。 ②認知症と思われる人が町中などの外で歩いていて困っていそうだったら、声をかけて警察などに相談する。
町で認知症の人のリストをつくって広める。 認知症マークをつける。
しせつを作る。 介護する人をつける。 しせつだいを家庭のじょうきょうに応じて支援する。
認知症の人のお世話をする施設や交流会をつくったら認知症の人はたくさんの人と交流できるし、その家族は施設の人に相談出来たり交流会で困っていることの対処法などで教えてもらったり悩みを共有できると思う。
前にニュースでおばあさんが家族の知らない間に家をでて外に歩いていっちゃって警察官に保護されたというものがあった。 このニュースをうけて、きっと家族の方はケガしていないかなど不安だっただろうし、このおばあさん自身も少し不安だったのかなと思った。 ここで私が提案したいのはまずそういう認知症という病気があって自分の住む近くで暮らしている方もいるということを多くの人が知り、街中で困っている人、おばあさんやおじいさんを助けやすくするということ。 今、話しかけられただけで不審者扱いになってしまう人もいるので知らない人に声をかけたり、かけられたりすることが難しい世の中だけど、ニュースでは私達のような中高生が助けたということも多いので、街中ではまわりをよくみて困っている人を助けられるようにしていきたい。
認知症は物忘れがはげしい。 誰がそのためには覚えてくれる人が必要。 →そのために認知症を持つ人々がいる家庭に物や人を自動で認識して音を出すＡＩをくばる。

提案内容
認知症の人の持ち物に名前・住所等をかいたキーホルダー等（すべて共通のデザインで妊婦さん等がつけてるキーホルダーのようなもの）をつけ、周囲の配慮をはかる。 また市内で認知症等で迷子になった人がいれば、積極的に防災無線を使い協力して探せる形をつくる。 ※〈キーホルダーについて〉しやけんで共通のデザインのものにし病院等で配布する←周囲の人に共通認識が生まれる。 個人情報をかくので磁石等を入れ開閉できる形にする。（イメージ的にはは小型の筆箱）
認知症の人を受け入れてくれる施設を増やしたり、施設に入るためのお金を援助したりなど家族や本人の負担を減らしたりすることで認知症の人もその家族も安心できるような環境をつくったり、応援するにも認知症のことを知っていないといけないので、それぞれ自治体ごとや地域の小・中学校などで認知症の人と関わる機会をつくり認知症について詳しく知る必要がある
認知症の人やその家族を地域で応援するためには地域のコミュニティセンターなどで交流を増やす。 また認知症の人の介護をしてくれる施設をつくる。 そうすれば家族の人がずっと介護をして負担をおうことが少なくなる。 さらに認知症の人もいろんな人と会話をした方が症状の進行をおそめることができると思う。
毎週の土曜や日曜のボランティアで困っている家族の元へ助けに行ける人を募集すると良いと思います。 具体的には認知症の方がいる家族のところへボランティアの人がいって1日一緒に過ごすというものです。 一緒に買い物に行ったりすればボランティアの人の用事もすませられるしその家族の負担も減ると思うのでいいのではないかと思います。
・老人が一人で歩いていたら積極的に声をかける ・若年層に知ってもらうため有名なＳＮＳのインフルエンサーなどとコラボして紹介する。
老人ホームで管理する。 世話係のような人を配置する。（機械を開発してもいいかもしれない）
・認知症の人の集まりを作る。例えば週一でみんなで料理をする、運動をする、ピアノを弾くなど生活の一部に習慣として定着させれば、認知症の方の楽しみも作れるし、その集まりに参加したその家族同士も、情報交換や悩み相談が出来て、不安やストレスなどを少しは軽くできると思う。 ・地域ごとに認知症の方のマーク（マタニティマークのようなもの）を取り入れる。外に出るときに身をつけておけば、どこに住んでいる人なのかも分かりやすいし、地域の人がみんなで見守れると思う。
認知症の人だけの施設をつくって24時間その人の親戚や友人だれもが入れるようにしたり、認知症専門の人にいてもらって少しでも認知症をおくらせるようなリハビリを行う。 日常的に使うとこの近くに絶対やらないといけないことをかいたふせんをはる。
交流会を設置する。→本人やご家族が参加。 認知症の患者さんが一人で家を出てしまった場合は放送やHPに掲載（アプリをつくることも） ハウスヘルパーさんも市で用意できるようにする。
・認知症を持つ家族に無償でGPS付きのアクセサリーを支給する。 ・募金をする。
認知症の人達が集まれる場所をつくり、認知症がこれ以上進行させないために勉強会みたいなことをする。 認知症の人達の家族に効率がいい介護の仕方を教える
認知症の方やその家族にお金を配る。
認知症の親族は精神的にも色々ときびしいところがあると思うので、親族が少しでも楽になるために、何事にも相談に乗って不安なことやできないことがあれば、認知症の人を介護するのが職業の人などに、実際に家に来てもらってたくさんのことを教えてもらうサービスを提供する。
老人ホームを自治体でつくり、安く預かる。 認知症について広め体験会を開く。
認知症の人が家から出なくてもよいように家に必要な食料や衣服などを送ってあげるサービスを提供する。 認知症の人のかぞくのふたんをへらすために地域に認知症の人がくらせるしせつをつくってあげる。
ＳＮＳをつかってその地域の人たちに認知症の人をたすけようとつたえる。
レストラン、図書館、ショッピングモールなどのところに専門訓練を受けたりした人がいる案内を設置。 今まで設置された案内にそのような人を設置するのもいいと思う。 そうすると、普段の生活で困ることが少くなり、迷い人も少なくなる可能性がある。 また、ふれあい広場らしきものを設置し、それもまた公園等に設置し、認知症でない一般人や高齢者を認知症の人と一緒にふれあえるよう仕向け、認知症へ対する差別をやわらげ、助けたり優しく接したりする必要があると皆が理解してもらうことができるかもしれない。
定期的に認知症のことを教える講座を開き、たくさんの人に認知症を知ってもらう 地域の人に助けが必要な人の存在を知ってもらい、どこにいるか分からなくなったらみんなで探せるホットラインを作る
・地域のマップを色んな場所（公園や店の前など）に設置する。 ・簡単に家族の人に連絡できるようなアプリを開発する。
認知症の人の世話をするのはその人の家族で、働く世代が多く世話は負担になっているので、市が介設施設を支援して、介護施設の受け入れをしやすいようにする。
・認知症とはどういうものかを、幼稚園や保育園で教える。 ・自治体が認知症について定期的に説明会をひらく。 ・認知症の人とその他の人との交流の場をつくる。 ・認知症の人が独自に事業を行おうとしている場合に援助する。
認知症の人が入る施設を、完全に委ねる形ではなく、週何回というような施設を作る。 施設では認知症予防を行ったり、「行きたい！」と思えるような事を行う。 週何回かにすることで施設に入るための費用を削減し、家族の人たちがより頼りやすい施設を作る。
認知症の人に虐待をするような人もいるから、認知症の人への正しい対処法をもっとたくさんの人が知れるように、病院にポスターなどを貼る。
認知症の人を家で介護できない人を対象とした家庭を助けるために市からサポートをしてくれる人を呼ぶことができるアプリを作ったりして応援する。
認知症の人をからかったり馬鹿にしたりする人も中にはいると思うので、誰でも理解できるようにポスターを作ったり、より知ってもらうようにスタンプラリーを開催する。 たくさんの人に知ってもらうことで、周りからのサポートも増えていくと思う。
その人や家族にお金を支給して、役立ててもらう。
認知症の人に対して応援するように呼びかけるポスターを作る。
お金をくばる。

提案内容
国の税金で認知症の人向けの介護しせつを作る。 また、小学校などで認知症になるとどうなってしまうのか？などといった授業を展開する。 生活費などを国から金を出して提供してあげる。
認知症マークをつくる
近所の人たちが誰が認知症なのか教え合ってみんなで協力し合う
介護ができる施設を増やす。
認知症マークを作って、公共の場をつかうときに他人が配りょできるようにする。
認知症の人の家が認知症の人のことを報告しなかったらその家の代表者をたいほ、する（ちょうえき） 認知症の人の写真を市のポスターけいじばんにはりつける イメージ図： 裁判 「認知症なので無罪」 「どっちがブレーキだっけ」 「前から車がー」 「何が悪いん人引いて」
認知症を持っている人の知り合いに聞いて、友達や近所の人々に教える。
認知症の人は認知症が進行するのをなるべく遅くするための方法を冊子にまとめて、くばるしくみをつくる。 でもなってしまってからはもうおそいので、認知症になる人を少なくするために予防するためにはどのようにすればいいかなどの講演会などを定期で行なって実行してもらった方がいいと思う。 認知症で困っている人が気軽にスマートフォンできけるカウンセラーなんかもいいと思う。
病院でサポートしてもらう
学校で認知症の人と交流するイベントを実施。
介護の人の給料を上げる。 施設に強制送還する。
施せつをつくるなどその家族には寄付をしたりする
市民センターなどの大きな施設で年に何回か認知症の講義を開く。 また、認知症を治すためのリハビリ方法などを伝える。 ポスターをつくる。
介護関係の人たちの給料を3倍にして認知症の人たちを受け入れる施設を増やす
認知症について学ぶ
認知症の人が働くのを助けたり、集うことができる場所を作る。 家族の相談を受けたり、家族同士で話せるコミュニティを開く。 チームオレンジの取り組みについて市報やポスターに乗せて知ってもらえるようにする。
認知症の人に向けた応援グッズを製作する。
認知症の人だとわかるように、ヘルプマークみたいなものをつくってその家族に渡す。 認知症の人がいる家族が集まり、悩みなどを相談する会を開く。
施設に入る。
・はげます。 ・してあげられることを精一杯する。 ・広告に認知症のことを知ってもらうためにだす。 ・お薬をだす。
自分が認知症になってしまったらどうなるのかを、正しい知識を使って広めることで、認知症を身近に感じてもらい、認知症の人やその家族が周りの共感を得やすい社会を構築する。
認知症の人やその家族を地域で応援するためには？ ・補助金を出す。 ・認知症の人を入れる施せつ、ヘルパーさんを安く誰でも頼めるようにする→そのためには最近へっている介護師を増やすためにきゅうりょうを高くする。 ・子ども食どうならぬ高齢食どう（65さい以上のひとりで生活できない老人に限る）を開設する。
認知症の人が家族に害をおよぼすようになったら、田舎に誘導し、悟りを開かせて落ちつかせる。 認知症の人は忘れることも自覚しているので、お店の店員などが日々声をかける。 認知症の人々には定期的に運動をするためのチラシを配り、認知症同しで何かが変わる。 仏教の信仰を懸命にさせ、心を清めさせることで、自分の過ちにきづけるのではないか。 高齢者のための教室を定期的に開き、認知症を自覚させるように導く。 高齢者になる前に今後、どこで住みたいか、何をしたいかをあらかじめ政府で調査し、そのことに沿って進めれば、結果は変わるのではないか。 お金や家など考えて決めることは機械を使って、その進路に従わせる。
特別な施設を作ったり、税金から援助する
認知症を知ってもらうために、いろいろな場所で講演などを行うようにする。 認知症について知れるサイトを作る。
近くの家でグループを作り一ヵ月に一回情報を交換してその人がいなくなってしまったときに「ここで見たよ」などのことがとどくようにしたり、自分の家の人が認知症になったときに積極的に情報開示をして協力できるようにする。
認知症を治癒する薬を広める・普及させる。 普段から認知症の予防を身近な生活やしせつに取り入れる。 認知症の人の家族に補助金を出したり、介護を推進する。
認知症の人にバンドやバッチなどをつけて、周囲に知ってもらう。 それをつけた人を見かけたら、理解して助けてくれると思います。
認知症になる原因や認知症の実際の症状をまとめたサイトなどを市がつくる。 認知症の人の家族に正しい情報を市から伝える。 地域が認知症の症状などについて詳しくなる。 認知症の人達同士で交流ができる場を設ける。

提案内容
神経衰弱を毎日地域でやる。 家族に認知症のサイトを見て理解してもらう。 認知症の人に寄り添える人を募集する。 公民館などでイベントを開き、色々な年代の人に「認知症」を理解してもらう。 アルツハイマー型以外は予防を徹底する。 精神疾患だろうと罪などは平等に。
「チームオレンジ」を広めるためポスターや広告を作る。
認知症の人にきちんと気持ちを寄りそって優しく接したり、補助金などの支援をして、認知症の人を理解するための動画を出したり、応援メッセージやボランティア活動をする。
2についてはきふきんなどをつのって積極的に応援しやすいシステムをつくるのがよいと思います。
認知症の人を応援するためには、認知症になった人の家族や周りの人で認知症の人が危ないめに遭ったり不安にならないように声がけをして見守ってあげればいいと思います。 認知症の人の家族を応援するためには、困っていることを相談する場所をつくったり、認知症の人を助けてくれる人を気がるに家に呼べるようにすれば負担が減ると思います。
認知症の人がいる、またそれである人には障害者がよくつける障害者マークを見えるようにし、まわりの人が認知症の人だと知って助けるようにすること。 自治体で認知症の人を対象にしたサポートセンターを創設し、認知症の人やその家族の人に相談をするようにすること。
認知症はどういうものなのだろうかと学校などで講演すれば良いと思います。 私は、小学校などで障害者が実際に来たり体験をしたことを今でも覚えています。 それに、障害者にやさしくしようという気持ちも芽ばえました。 なので認知症についても学校で説明すればより理解が深まるのではないのでしょうか。 認知症について深く知れば、問題と向き合う人も増え、より問題解決へつながるのではないのでしょうか。
認知症かどうかは周りから見れば外見などからでは判断できない。 だからこそ、誤解などのトラブルがおこることもあるだろう。 その点においての対処として認知症を示すマークやアイテムを身につけて、その印を全国的に発信したら、認知症であるかどうかを即座に判断することが可能になり、誤解などのトラブルが減少し、周りもサポートしやすくなるだろう。 周りが認知症である人のことを認識できたら、本人もまわりも不快な思いをすることが少なくなり逆に人のつながりやあたたかさを感じることができるのではないだろうかと思う。
自治会で認知症を理解する講義をする。 地域で認知症を防止するレッスンを開く。
認知症をふかぼりする。
・認知症の講座を開く ・認知症の人だと分かるようなバッジを作る ・認知症の大変さを伝える
認知症の人やその家族を応援するにはまずは沢山の人に認知症の大変さを知ってもらう事が大切だと思います。
認知症患者専用の老人ホームのようなものを建てる。
寄付金を出す。
老人ホームなどを利用しやすくする。 寄付金を出す。 認知症の方の家族がいつでも相談ができるような、窓口などを市でつくり、困った時に1人で抱えこまないようにする。
ネットやしんぶんで認知症を知ってもらうための情報をけいさいする。 小学校や中学校で認知症についてのイベントをかいさいし、義務教育に認知症について知ることを組みこむ。地域で定期的に認知症セミナーなどをかいさいする。 認知症について地域の人々に知ってもらい、認知症本人や家族がどれだけ大変で辛い生活をしているのか理解してもらう。
認知症マークを作り、認知症の人につけてもらえば良いと思います。 認知症マークがあることで、一目で認知症の人だと分かり、応援がしやすくなります。 また、マークを持っている人たちでつながりができ、認知症の人々やその家族で協力しあえるようになるため、みんなが過ごしやすい町を実現することができると思います。
・認知症の人やその家族などが集まって話し合う機会などを作る ・認知症の人たちに認知症という病気について知ってもらう ・保険金制度を新しく作る ・認知症の人たちが使いやすいような製品を開発する ・認知症の人だと分かるようなグッズを配る
認知症の人がいる家族への何らかのキャンペーンや認知症の人の家族たちが集うコミュニティーを地域ごとに区分けしたりしてすぐに誰かと認知症について話せられるようにしたらいいのではないですか？ あとは何のかかわりもない人たちもそういった人たちを支えられるように認知症についてのクイズを出してみたり、地域のイベントなどに「認知症」というキーワードを入れてみたり、日常生活の中でよく「認知症」という単語見ていたらどことなく親近感のような、自分から関わってみようかな？という意識が強まり、その家族たちを支える活動が活発になるのではないでしょうか。
私の祖父も認知症でした。 やはり最初はどう接すればよいのか分かりませんでしたが、それでも普段と変わらぬ距離感で接していると、相手もそれに応えてくれるようになりました。 薬での治療も、もちろん大切ですが、認知症の方に寄りそってあげる気持ちが必要だなと感じています。 また、認知症の名前だけ知っており、詳細はいまいち分からないという方も少なくないと思うので、 正しく理解し、周りにも認知症を受け入れてあげるという環境をつくっていくことが大切だと思いました。
認知症の人やその家族を地域で応援するために、コミュニティーでの話し合いをしたり、介護の人が実際に伝えることが大事だと思います。 認知症の人がくらしやすい町になるために、介護者（サポーター）が認知症の人が１人暮らしの時によりそってくれるようなサービスを提供したり、家族がいるのであればその人に補助金を使うようにしたら暮らしやすい町になるのではないでしょうか。 認知症の人に対する偏見をなくし、誰もがくらしやすい世の中にすることが大事です。 なので、その家族に市が訪問して、市の人とその当事者の人がコミュニケーションをとることも大事だと考えます。

提案内容
認知症になってしまった人にはマタニティーバッチのようにパッと見でわかるようなバッチをつけてもらって、一人で歩いているようなら交番に届け出たり、近くの家族を探してあげられたりできるようにしたり、認知症の人達の為のそれぞれのコミュニティーを自治体で開催したりする。 又、女性専用車のように認知症の方が乗るためだけの専用車両があれば安心して遠出ができるようになる。 近所のお店に呼びかけて、認知症の方にはできるだけ優しく接客したり、認知症について書かれたポスターを地元の小中学生に作ってもらい掲示する。
年に数回認知症の人とふれ合う機会を作ったり、認知症についての講義をしたりする。 そうすれば子供や大人まで、様々な人々が認知症についての理解が深められると思った。 また、認知症の人をサポートするために、定期的にサポーターの方が家庭訪問する制度を作った方が良いと思う。 また、普段当事者をサポートしているのは家族であり、家族にも少なからずストレスや困り事があると思うので相談センターをつくる。 そして、地域にもサポートしてもらうためにも、任意で認知症のステッカーを送り、げんかんドアに貼ってもらう事で、周りの人のサポートを得られるようにする。 そして、認知症の人に意見を聞き、どうすれば良いか聞く。
認知症の人やその家族を地域で応援するためには、まず地域の人などに認知症を正しく理解してもらわなければいけないと思います。 そのためには認知症について学ぶことができる「認知症サポーター養成講座」にくる人を増やす必要があります。 そこでぼくは人が多い駅などにポスターをはることをオススメします。 認知症について正しく知っている人が増えれば認知症の人たちの気もちを分かってくれる人が増えると思います。 そういう人たちが「チームオレンジ」に入ることで認知症の人たちに対する応援をする人たちの人数が増えると思います。
・チームオレンジに加入することによってその地域のものが割引きされる仕組みをつくる。 ・さいたま市以外の市と協力しあう。
小学校などで理解してくれるような授業をとり、そこでこのテーマを考えた人が授業をする。 認知症を知ってくれるような目立つポスターをつくる。 動画を投稿できるＳＮＳなど認知症について知ってもらえるような動画をつくり、とうこうする。 テレビの子ども番組で認知症の大変さなどを知ってもらうように放送する。 認知症の人の家も普通の人の家と同じように接する。 認知症の人に対する偏見をもたない
地域で認知症の人やその家族を応援するために特別支援学校のような認知症の子のための施設をつくり、その家族や地域の人々でその子を支えていくようにするようにします。 例えば、言葉を教えたり、物に対する名前を教えたり、日常でよく行うことを教えたり、高学年の子であれば、物の使い方、時事、各教科などなど、世の中のありふれたことを教えたりします。 また、普通の子とは同じ場所では勉強させません。 理由は、認知症が原因で、いじめ、けんか、暴力などの悪影響がでてしまうためです。 これも、認知症の人やその家族の支援になると思います。 また、認知症の人がいる家族にお金を支給します。 そのお金で、家をリフォームし、認知症の人が暮らしやすい環境になるなどのことができると思います。 そして、もう一つ、地域で必ず参加しなければならないものに対する拒否権があったほうがいいと思います。 そのほうが、認知症の人の介護の時間を多くすることができ、その人の身の危険を少なくできるからです。 特別支援学校のような施設の設営、認知症の人がいる家族へのお金の支給、地域での行事への拒否権の3つを提案しようと思います。
認知症について、家族で応援するためには、家の中に覚えておかなくてはならないこと等を家のあちこちにメモを書いてはったり、認知症の方自身も今からやりたかったこと、やるべきことをメモし、定位置を決め、常に分かるようにしたらいいと思います。 また、認知症の方と家族でもそうでなくても一緒にいる時は、何を目的とし、今、何をやろうとしていたか、また、何を忘れてしまったのかを、前後の会話から察して、一緒に確認していけばいいと思います。 地域で応援するためには、まず、認知症サポーター等で認知症の方を認知することから始めなくてはと思いました。 場所等が分からなくなってしまった場合の為に何kmずつで地図を置くのもいいなと思いました。 また、家族や地域の応援でなく、認知症の方自身もすぐに確認ができるスマホのロック画面等に忘れてはいけないことをメモできる機能があったら少しでも認知症の方の負担を減らせるのかなと思いました。
地域の人を集めて認知症の講座を開く。 けいじ板や回覧板などに認知症についてのポスターをのせ、少しでも地域の人の目に入るようにする。 オレンジリングをしている人が交たいで認知症の人のサポートをする。 できるだけ認知症の人を１人にしないようにする。 認知症の人の家のガスを止め、火災を防ぐ。 介護のロボットを作り、家族と手わけすることで、家族のふたんをへらす。 地域全体で1つの家に住む。
若い人達は認知症について知る機会がないので道徳などの授業で認知症についての文章を読んだりして、少しでも知る機会を作るといいと思います。 認知症について学べる「認知症サポーター養成講座」の参加をうながすポスターやちらしをはったり、配ったりするといいと思います。 認知症の人やその家族が小学校や中学校、公民館などで、実体験などいろんな話を実際に聴ける機会をつくり、その場で一緒に意見を出し合ったり考えたりできる場所や機会があるといいと思います。
応援するより、認知症の薬を研究する人たちに行政がお金を出して研究をしやすくする環境を整備してどんどん研究を促進した方がいいと思います。 あとこれを発行するお金があったら借金を返すなり、研究をする人に補助金を出す方が社会にとって有益だと思います。 借金については少しずつでも減らそうという努力が大事です。 借金を残して破綻寸前の外国政府のようにならないために借金を返して、将来あり有る戦争で人口が大きく減ってもたえぬける程度にはしましょう。 話が脱線してしまいましたが、応援だって限りがあります。 今の時代何事にもお金がいります。 なので全員が一致すべきですが、今の時代話が通じない政党みたいな人もいるので認知症の人をへらすしかないです。
私は認知症の人が何回も同じことを聞くのは、ただ単に忘れているだけで、聞かれて毎回答える人はうっとおしいなと思うだろうなと思っていました。 ですが、電車内の広告で認知症の本についてかかれていて、何回も同じことを聞くことは忘れたくない大事なことだからということを初めてそこで知りました。 自分でも知らないうちに勝手な誤解をしていたことが分かり、認知症の人について本当の情報を知ることが大切だと気づきました。 なので、認知症の人がいる家族だけでなく地域の人全員が誤解や偏見をなくせるように、子どもが読みやすいマンガや電車を利用する人の目につきやすい車内の広告を活用することによって、幅広い世代で認知症への理解が広まっていくのではないかと思います。

提案内容
近所の人などにみてもらうシステムをつくるべきだと思います。 認知症の人と２人で同居している場合介護している方は買い物などにも行かなければならないときも近所の人が見守ってもらうことで介護している方は安心して買い物などに行くことができるのではないかと思いました。 また、市役所から貸し出すAIロボットを各家庭に取りつけて（介護する方が外出する時）認知症の方の身に何かあったときに介護する方の携帯に連絡がいくようなシステムを導入するのも良いと思いました。 この2つのシステムがあることにより介護者の子どもや配偶者などは安心して外出できると思います！ このシステムはさらに市だけでなく全国でも使えるように救急車を呼んだり遠くに住んでいる親せきにも通知が行くように設定すれば便利だと思います！
２つ目の認知症の人やその家族を地域で応援するためには？では、認知症を持っている人が家族の中にいるという人のための、認知症を持っている人への対応の仕方などの説明会を地域で行ったり、家族の中に認知症の人がいる、という家族を集めて、「こういう時には、こういうことをしています」などの意見を聞いたり、話しあいができる集まりを作る、または認知症の人を一時的にあずけることのできる建物などを作ってみてもいいのではないかと思いました。
一回認知症の人と会う機会を作ったら良いと思います。 そうすれば、実際に認知症にふれることができ、また学校のカリキュラムにも取り入れることができれば、本物を見ることができます。 また、認知症の人への接し方が分からない時やどう相手すればいいか分からない時のためにいつでも気軽に電話で聞けるコールセンターや相談室のようなものを設置すれば、問題やトラブルが起きた時なども対応することができ、認知症の人も安心して生活できると思います。
認知症は、偏見が多くて、たくさんの人が認知症を正しく理解していないので、正しく理解するために学校で認知症について教えたり、自分で調べ認知症への理解を深める。 また認知症の人のマークをつけたり、バスや電車で認知症の人が乗りやすい環境を作る。 認知症の方がいる家族に国や市から補助金を出し生活しやすいようにする。 図書館などにどうやって介護すればいいのかの本を置いたりホームページを作り家族がいきなり認知症になっても困らないようにする。
認知症について学べる特別な講座に行って話を聞きにいくのは正直面倒なので講座にわざわざ行く必要がなく、色々な人が見ることの出来るインターネットで認知症について学べるような動画を出したら良いと思う。 動画を投稿できるＳＮＳなどで「1分でわかる認知症」とかだと頭に入りやすい気がする。 認知症の人や家族を地域で応援するには、認知症の人や家族の話を聞いてくれるような環境を作ることが一番最初に必要だと思う。
認知症になった人を介護する人を呼びやすい環境にする。 バスや電車で認知症になった人がすぐ分かるように、シールやバンドルをつけさせて介護しやすい環境にする。 認知症になった人がいる家族に補助金を出して介護に回せるお金を渡す。 また介護する時の注意点などが書いてあるマニュアルをくばる。 公民館に認知症とは、なったらどうなるのか、どういうふうに介護するのかなどが書いた紙をはる。
地域の活動を増やし、地域の人との関係を保つことで、困った時に相談できる相手を見つける 自分の悩みを打ち明けられる人を多くする。 認知症の人達のための募金活動、寄付。 福祉に関する税金の値上げ 政府から補助金を得る。
現在あまり応援できていないのは、認知症の人やその家族が、地域の人から誤解や偏見が持たれることを恐れているからだと思う。 だから誤解や偏見をなくせば認知症の人やその家族が認知症をかくさずに、地域からの応援をうけることができるようになると思う。 誤解や偏見をなくすためには地域の人全員が認知症について正しく理解しないといけないと思う。 そのために、小学校や中学校で認知症について学ぶ講座を行い子供のうちから認知症について理解してもらう。 また、大人むけの講座も大人数が集まれる所で行い、できる限りたくさんの人に参加してもらうようにお知らせする。 そうすれば解決できると思う。
認知症であることが分かるマークをつくったりしたり、認知症でも行えるイベント、活動を開さいしたり、する。 又、優待制度などを作ったりする。 常に側に居れる医師などをおき、体調管理や、かいごをできるようにしたり、施設などは今よりもかいてきにすごせるように工夫や、改良したら、使えやすい（年れいにとらわれずに）ものを建てる。 栄養ドリンクなどのサービス（1日に1本朝）など、、、、
認知症の人は迷子になってしまうとよく聞くので、地域の人で協力し、変な道や場所に行こうとしていたら止めたり、家に帰るようにうながしたりするようにすれば認知症の人が迷子になることも減るのではないかと思う。 また、認知症は病気であるという意識を持ち、優しく接する。 他にも認知症の方の家族にも認知症の方が迷子になった時なども「～で見た」や「～へ行った」などを伝えていけば見つけやすくなるし、一緒に探すのを手伝うなどをすれば万が一がある前に見つけることができるのではないかと思う。 地域で認知症についてもっと知る機会があれば、積極的に協力してくれるようになると思う。
認知症の人も心を持った人間であることに変わりはないのだからひどいことを言ったりしたりしてはいけない。 また、認知症の症状を少しでも軽くできるような運動を認知症の人に教えたり、その家族も協力してあげることが認知症の人を応援するにあたって大事なことだと思う。
早期発見ができれば、あまり困らずに生活できます。 アルツハイマー型の認知症は、幻聴、幻覚などの症状もあるので、色々困ることもでてくると思います。 普通のいつもどおりの生活をおくっていれば、問題ないということをテレビで見ました。 『認知症＝老人』という考えをなくしていきたいと思います。 家族の誰かが認知症になったら、突き放したりせずに、温かく受け入れることが大切だと思います。 外に出て散歩することもいい記憶回復につながると思いました。
・定期的に市内で認知症やその関係者を集め、話を聞く会をぼしゅうすればよい。 ・認知症やその関係者へのぼ金を市がつのる ・認知症についてのセミナーを市が開く
・認知症についてネガティブな説明をするのではなくポジティブな説明をする。 ・認知症の人達が運動や脳のトレーニングができる施設や団体をつくる ・認知症の第一印象は「よくない、めんどう」だと思うので、それを変えられるような、CMや説明をつくる。
・認知症の人やその家族が抱える悩みを聞き、その悩みを地域の人で共有してできるかぎりの支援をする。 ・アルツハイマーのワクチンをできるだけ早く普及し、少しでも家族が話し合える時間を増やす。 ・家族の負担を少しでも減らすため、認知症の人たちが心地よく過ごせるような場所をつくり、地域でボランティアをつのる。 ・地域の人に認知症について知ってもらう→偏見をなくす。

提案内容
・地域のつながりを強くして、認知症の方とその家族を理解し、認知症の方が外を1人で歩いていたら、声をかけ家族の方に連絡をするようにし、もし迷子になってしまったら、地域でアナウンスをしたり、地域の公式サイトなどで特徴を載せ、探す手助けをしてもらう。 ・認知症の方やその家族の方同士が話せるような施設や講演会など情報共有や幸さを理解（メンタルケア）を出来る機会を作る。 ・認知症に対しての正しい知識を持ってもらう為、認知症の方の家族や介護にたずさわっている方々の話を聞く機会を設ける。
・学校で認知症についてのセミナーを行う ・認知症のおそろしさを知れるサイトを作る ・認知症の人たちと家族から話を聞ける場所を作る ・認知症の人の家族の人たちが話し合える所を作る ・認知症の人たちがこまらずくらせる町を町全体で作れるようにする
応援したい人がすればいい。 地域ぐるみでわざわざ応援する必要はないと思う。 治せない病気をもつ人間にまだ未来ある人間が時間を使うのがバカらしい。 まずこの提案書じたい認知症を差別的に見ていると思う。 下半身がなくたって数人の親ぞくのサポートで生きている外国人だっているんだし、認知症だって求められてない応援はせずに一人の人間としてあつかってあげるべきだと思う。 後自分は親が認知症になってもサポートするつもりはない、なぜなら親から「他人のことは気にせず、自分の人生を生きて欲しい」と強く言われているから。
認知症の人がいる、家族を応援するために、認知症の人がいる家族の組織をつくり、認知症のことについて学んだり、認知症の人がいる家族でお互いに相談したりできる場所を設ける。 地域の人にもっと認知症を理解してもらい認知症の人がいる家族がもっと、困らないように相談所をつくったりして不便のないように生活ができるようにする。
認知症の人本人や家族を支援する団体の人数を増やすためにPRをする。 認知症の人を保護する施設をふやす。
・認知症を直すための、薬や方法を研究しているところのえん助をする。 ・認知症とは記憶力や判断力の低下などの症状があるため、色々なものに、それを説明する文を２次元バーコードで見られるようにしたり、今まで自分が何をしたかまた、これから何をするべきなのかを教えてくれるアプリケーションを開発する。（AIなどが進化すれば、その人につきっきりで介護してくれるそう置がつくれるかもしれない） ・どれをするにしてもお金がかかるため、今現在不景気である日本をどうにかするのが１番。
一番の対策は認知症の薬が出ることだが、今はまだ出ていないので、その認知症の人の家族をできるだけ支える。 またはその家族が認知症の人と暮らしたくないなら介護施設センターに入れる。
・認知症の理解を広め、誤解や偏見をなくせるように、中高学校で授業をひらいたり、認知症を身近に感じられるような取り組みをする。 ・県で認知症の悪化をとめれるのに優秀な病院などをまとめた資料を用意していつでも認知症の人やその家族に送れるようにする。 ・認知防止の会（？）などを作ってその会に来た人達に勉強や作業をさせ、根本的に認知症の人を減らす。
認知症の方やその家族が悩んでいること、もっと改善できると思うことを地域に伝えられる場を設ける。 また、他の人の間違った認しきや偏見をなくせるよう認知症に関する講座をつくる。
私は今回の提案書で初めて認知症について考えてみました。 現代の社会では、インターネットが発達しており、調べてみると、たくさん色々な情報が出てきました。 ちなみに定義は「正常に発達した知的能力が脳の老化や器質的疾患などによって低下した状態。」らしいです。 実は私には認知症のおばあちゃんがいます。 認知症の中でも軽度の方らしいですが、何度言っても忘れてしまったり、同じことをくりかえししてしまったりすることがあります。 それに対して、おじいちゃんがかなりきついことをおばあちゃんに言っているのを見ると胸が痛くなります。 私は認知症の人やその家族を地域で応援するためには、まずは多くの人の理解が必要だと思うので、みんなに知ってもらうべきだと思います。
認知症の人は自分の身の回りの事を忘れる事だけでなく勝手に家を出て行ったっきり戻ってこないと言うのもよく聞くので、高齢で一人暮らしの方や認知症を持った人の家に見守りサービスをつける事を努力義務にしたり、地域での応援としては、小学生など学校で認知症について学べる機会を設けること。 認知症については小学校低学年とかだと理解が難しいと思うので小学校高学年から中学校3年間のどこかで学べたら良いのかなと思う。 そこには専門家の医師もだけれど、ご協力頂けるなら認知症を持った方のご家族とかに介護してた時の話や大変だった事とかについても聞く機会があれば正しい理解が出来ると思った。
認知症の方の介護を1人にさせてしまうと、その人の負担やストレスが大きくなってしまうと思う。 だから、介護する施設、老人ホームのようなものを増やし、その人の負担をなるべく軽くする仕組みが必要だと思う。 また、インターネット上に、認知症の家族や親せきの人が色々な意見交換（こういうことをしてあげたら思い出してくれたよ～など）をしたり、辛い思いをしてしまっている人達は、同じ辛さが分かる仲間と話せるという場を作るのが良いと思う。
障害者マークのような、認知症の人だと一目でわかるマークをつくり、それを見た人は理解して助けてあげられるようにする。 他にも、認知症の人の家族にはその人を介護しながら働けるようにパートにすぐ変えられる制度や、援助金の制度を設ける。
認知症の人やその家族を地域で広援するためには、まず、皆が認知症について、理解を深めることが大切だと思う。 そのためには、認知症について伝える資料が必要となる。 例えば、市のホームページに専用ページを作成し誰でもチェックできるようにしたり、パンフレットを各学校に配布して、特別授業を行うことなどが考えられる。 そしてさらに、そこに認知症の人への接し方などを加えると、その家族に分かりやすくなると思う。 認知症の人や、その家族を地域で応援するためには、それぞれで交流会を開くのが良いと思う。 例えば、認知症の人の交流会では、お茶会などを通して会話を増やし、その家族の交流会では、専門家からの講習を受けたり、相談ができるようにすれば良いのではないかと思う。
認知症の人を介護する介護士の人気を上げて介護士を増やして、認知症の人も暮らしやすい世の中をつくる。 そのために岸田総理には介護しない税をつくってもらい介護しない人には税金を課して、その集まったお金で介護士の給料や、施設をきれいにすることにお金をつかう。
地域で認知症の人やその家族の人たちの交流会を定期的につくり、地域の学生も交えてお話しや食事がたのしくできたら心にも余ゆうが生まれてよいと思う。
街を徘徊するレベルの重度な認知症である方は、街に届け出を出すことで、徘徊した場合、地域の人々の助けを求めることができる制度をつくる。 維持費が馬鹿にならないと思うが、幼稚園や保育園のような認知症の方向けの預り施設を作る。
また、地域で認知症に関するポスターなどを配布する。

提案内容
認知症に関する人が周囲の人々から手助けしてもらえるために認知症に関する人々がどのようなことに苦労して、世間がどうあれば助かるのかを発信していくべきだと思います。 そして、その発信をより多くの人々に届けることで周囲の人々は認知症のことを理解し、身近にいる認知症の人のために何ができるかを考えるきっかけになると思います。 また、認知症を体験できるイベントなどを行えば子供でも認知症の大変さを少しでも理解できるようになると思います。 さらに、認知症やその家族の方が演説を行ったりして、大変なことを周囲の人々に積極的に伝えていくことが重要だと思います。
認知症についての授業を学校で行えば、学生には伝わると思います。 認知症の人が地域で講演を行えばいいと思いました。 家族に認知症の方がいる人たちで、集まって交流会をするのもいいと思いました。 実際に経験したことや、悩みだったりを共有することで、共感できたり、解決方法が見つかったりすると思います。 また、認知症の人同士で交流できたら症状とのつき合い方だったりを相談できると思います。 「認知症サポーター養成講座」の存在を私も知らなかったので、まずは広めることが大事だと思います。 回覧板や学校でそのお知らせのちらしを配ればいいと思います。
認知症の方やその家族を地域で応援するために、まず私たちが認知症について学び、症状の正しい理解に努めなくてはいけないと思う。 そのためには認知症の方が身近にいるという実感を持つことが重要なので小学生や中学生が課外学習の一環としてデイサービスや老人ホームなどへボランティア活動を行い、実際に目の当たりにすることで自然に認知症に接することができる。 また認知症についての出前授業をデイサービスの職員さん方にお願いし、正しい認知症は「恥」という概念を取り払い地域で様々な支援を行いやすい環境をつくれると思う。
自治体ごとに認知症の方の家族がいつでも頼めるサービスをする。 例えば必要な物資を頼むとすぐに届いたり、認知症の方の家族のメンタルケアのために相談窓口（ネット、電話など）をもうけておく。
認知症の人やその家族を応援するためには、まず認知症の人々の視点に立って、何を必要としているかを考えることからだと思います。 車いすを使用している方がスロープがあると便利に思うように、認知症の人々にも生活の上で欠かせないものがあると思います。 しかし、認知症の人々に何が必要かを聴くことは難しいと思われるので、認知症の方の介護をしてくださっているご家族の方や、ケアホームの方々にたずねると、より良い支援につながると思います。 必要としているものを地域で応援することによって、ご家族やケアホームの方々の負担も減らせると思います。
認知症の人を支える家族は、ふさぎこみがちになると思うので、月に１回ほど認知症の人を支える家族同士で話し合える会合を開き、お互いの思いを語り合える機会を増やす。 また、認知症の人を家庭で介護しており、仕事や学校に行きにくくなっている家族のために、お弁当宅配サービスや家庭内清掃サービスなどを市が支援すればよいと思う。 老人ホームで働く人のお給料を増やすことや、介護費を市が一部負担するといった金銭面での支援も重要だと思う。
私は小学校のときに、認知症を学ぶ授業があって、「オレンジリング」をもらいました。 その授業が終わったあと、私はオレンジリングをランドセルにつけました。 他の子も手にはめたり、筆箱に入れたりと大切に保管していました。 よって私は、小学生に認知症についての講座を行うことを提案します。 子どもたちに実際に授業で伝えることで、より身近なことに感じて、興味を持ってもらえると思います。 また、認知症の授業によって、自分の祖父母や近所のお年寄などにも、積極的に気にかけていけると思います。 テレビのニュースなどでは、重い内容として取り上げられているが、大変だからこそ、子どもたちの若さで助けて励まし合って、みんなが楽しく日常を過ごしていけたらいいと思います。
認知症の人もその家族の人も医者であるわけではないし、認知症に詳しいわけではない。 そのため地域全体で支えていくべきだ。 しかし今の私達は認知症について多くの知識を持っているわけではないので認知症を知る機会が必要だ。 チラシを作って呼びかけてみたり、ワークショップを開いたりして認知症を理解してもらえるようにしたらいいと思う。 しかし、家族に認知症の人がいない人だと他人事のように思えてしまう。 なので認知症の人との交流を計り、自分事として考えられるようにできたらいいなと私は思う。
認知症の人々は記憶力、判断力が低下するので、家族がつきそいで世話をする所もあると思う。 けれど、とても負担が大きいので、人が世話をするのではなく、日記を書かせたり、カレンダーを見せたりしてたとえ忘れてもすぐに思い出せるようにする。 そして、町や地区で定期的にイベントを開さいするのがいいと思う。 認知症の人々は全てを思い出せないわけではない。 よりせん明に記憶に残る出来事を覚えているので、イベントなどを通じてたくさんの思い出を作ってもらいたい。
まずは、認知症を患っている人が身のまわりにいるということを気兼ねなく周囲の人に話せるようになるべきだと思う。 「認知症」などの勘違いされやすい病気について、保健の授業で扱い、小さい頃から偏見を無くしていく必要がある。 そのうえで、親戚が認知症であることを気軽に相談できるようになれば周囲の人々と協力していけると思う。
①認知症の人が日常的を送れるように意思決定をサポートするガイドラインを作成する。 ②医療従事者の対応力向上のために、かかりつけ医や歯医者などの専門家が研修を受けることが大切だと感じた。 ③認知症の人やその家族が困った時に相談に乗ったり、情報提供を行うコールセンターを設置する。また、ガイドブックがあると便利だ。 ④地域の人々が認知症について理解し合う場を設ける。交流することにより情報を共有できる。カフェが具体例としてあげれる。 これら4つの施策を組み合わせて認知症の人やその家族が安心安全で生活できると考える。
認知症の人がいる家族は大変なので、老人ホームや介護施設に入れている人が多い。 しかし、施設に入れなくて苦労している人も多い。 このような人を支えていくためにはまず認知症を正しく理解することが大切だと思う。 よく知らないままだといろいろな誤解を生むことにつながってしまう。 あまり上手に説明できないので詳しくは1番を提案した人に聞いてみてください。 私はさいたま市民ではありません。
・認知症の人が勝手にいなくなってしまった時に市が探すポスターの貼り付けを支援 ・認知症の介護でやむをえずその家族が仕事をやめなければいけなくなった場合、生活保護からの支給金に加え月１０万円支給する ・小学校に市から認知症の偏見などを無くすために認知症についての講座を行う人を派遣する（対象学年小六） ・家族の中に認知症をかかえている人は、所得税の割合を一般人と比べて低くする ・老後の認知症の始まりを防ぐために市がカルタなど脳のトレーニングにつながる遊びをするイベントを定期的に開く。
認知症の方がいる家族をどのくらいいるか把握し、お金の援助をする。 それだけでなく、認知症患者のための大きな施設を作り、認知症の方たちが楽しめるような遊び場だったり話し場だったり、みんなでご飯を食べれるようにすれば家族側の負担も減るのではないかと思った。 ただ、大きな施設を作るということは土地代、建設費もかかるしたくさんのスタッフさんを雇わなければ患者さんたちは生活していけないと思うので、介護に興味のある人や、何でもいいから働きたいみたいな職についてない人を雇ったら良いと思います。

提案内容
認知症は誰にでも起こりうるものなのに、認知症の人を見て偏見や差別的な態度をとる人がいます。 実際私も以前、認知症の方々やその家族を何も知らずに哀れみの目で見ていました。 何か自分にできることはないか考えてみました。 自分は医者ではないから認知症を治すことはできないけどその方々の話なら聞けると思いました。 自分の悩みや苦しさって口に出すだけでもかなり心が楽になります。
介護施設があると思いますが、お金もかかるし、介護職の人達は大変だし給料が低い傾向にあるため、市が金銭面で支えることでより安く施設が利用できると思います。
・認知症の人はだいたい年おいている人がなので家の中をバリアフリーにするなどして安全に生活させるためにほじょ金などを出す。 ・家族の中に認知症がいる家族どうしで交流すれば悩みなどがかいけつしやすいと思う。 ・認知症についてわからない人や偏見をもったりしている人をへらすため、
介護サービスを使いやすいようにガイドブックを作ったり、講座をオンラインで開くべきだと思う。 また、認知症の方がいる家に定期的に保健師さんや看護師さんを派遣し、様子や家庭が崩壊していないかを確認する。 認知症の方がいるということを周囲の家にも伝え、もしも逃げ出してしまうなどの時に止める、など、近所同士でできる対策をする。
認知症を正しく理解するためにさいたま市が認知症について正しい知識を詳しく教える講座を開設する。 認知症の人もしくはその家族や介護する人たちが集まることができるコミュニティーをつくる。 そのコミュニティーに認知症への理解が浅い人に来てもらって正しい知識を得て理解を深めてもらう。
まず、地域において広く認知症に対する理解を深めていくことが大切だと思う。 認知症に対する理解を深めることによってみんなで支え合うためのネットワークを作っていく第一歩になる。 また、地域ごとに様々な資源を発掘し、ネットワーク作りに参加してもらうことが必要だと思う。 身近な人が身近なところで認知症の人を支える地域作りを目指していくことが必要であると思った。 例えば、地域でとあるプロジェクトを企画し、ポスター等を用いて広め、地域の人達の仲を深めることで、認知症の人やその家族を地域で応援することにもつながっていくと思う。
私は、認知症の人やその家族を地域で応援するためには、まず私たちが認知症を正しく理解することが重要だと思います。 そこで、私は認知症について、当事者やそのご家族が実際に学校に来て話していただく「特別授業」のようなものを学校で行うべきだと思います。 そこで、認知症のことをもっと知り、また、認知症の方と直接触れ合うことで、認知症をより身近な病気と感じることができます。 そして、それをきっかけに認知症に興味を持った学生たちが「チームオレンジ」などを通じて認知症の人やその家族を支援する、また学生たちが家で親に話すことで親世代、さらには社会全体が「チームオレンジ」の存在や、認知症とは何なのか知ることにつながります。 このように、まずは私たちが認知症を理解していく、そのために特別授業を開き、それは認知症の人やその家族を地域で応援することにつながっていくと私は考えます。
・認知症についての誤解や偏見は患者さんと関わる機会のない人達の知識の少なさが原因だと思う。イラスト等を使って分かりやすく説明されているポスターを地域のコミュニティセンターや病院に貼って理解度をあげることが大切だと思う。 ・患者さんの家族が孤立しないよう、認知症患者のコミュニティを作り、他の家族の事例や生活の工夫などを共有し合う機会を設けたらいいと思う。そうすることで患者さんと接する時間が長い家族にも心の余裕が生まれ少しやりやすくなると思う。
認知症の人を応援するために、認知症の人の助けを促すポスターを地域に貼る。
私の住んでいる地域では、ときどき認知症の人が迷子になってしまい、情報提供を求める市内放送が流れます。 それを聞くたびに、認知症はどのような病気で、何かできることはないのかと思いつつも、いつも何もできずにいました。 そこで、私みたいな認知症についてあまり詳しくない人も一緒に認知症の人とその家族を支援できるようなワークショップがあればいいと思います。 まずワークショップが始まる前に、小・中学生のボランティアで認知症についての講座を受け、それを踏まえて、料理クラスや昔遊び、ゲームなどで認知症の方とその家族と交流する機会を作ればいいと思います。 例えどのような病気になってしまっても、みんな同じように関わってほしいと思っているはずなので、誰でも気軽に楽しく参加できるワークショップができたらいいと思います。
認知症について詳しい精神科や脳神経外科の医師の人に協力してもらって、様々な学校で授業内で説明会を開けば未成年には正しい認知症の認識がつくと思う。 大人が正しい理解をするためには、見られるかは分からないけど、ＳＮＳで正しい認知症の知識を動画や映像にしてアップすればそれなりに見てくれる人はいると思うので、認知症について分かってくれるかもと思いました。 また、テレビ番組で認知症などの身近な病気についてで特集を組めばＳＮＳを使わないような人、おじいさんおばあさんにも届くのではないかと考えました。 そして、そんな認知症の人にやさしい町にするためには、まず家族内ではできる限り「普通の人」として接してあげることを提唱します。 今ぼくの母が老人ホームの介護の仕事に就いていて、その中で認知症の人もいるのですが、その時はその人のいつも通りに合わせてあげた方がストレスがかからないそうなので、家族内ではそういう接し方を心がけたらいいと思います。
認知症の方の話を聞く機会を公立の学校を中心に増やして、少しでも興味のある子どもを増やしていく。 その子供達の中で１人でも多く認知症への興味をもてる人が増えていけば、認知症の方やその家族にとって優しい世界になると思います。 また、ポスターなどで、簡単にわかりやすく認知症について知れるものを作ったり、地域の中学生などを中心に認知症についてのフレーズなどを考えて、広くそれが知られるようになる取り組みをしていくことで認知症への理解を少しでもされるようにしていく。
ぼくは認知症の人やその家族を地域で応援するためには、まずは認知症のこと自体をまずは、理解してほしいなと思います。 それを知ることによって世界の人々の「認知症」に対する意識が変化するのではないかなと思います。 世の中の人々に「認知症」の辛さなどを教える先生みたいな人も必要だとは思います。 そうしたら世の中の人の中で「認知症」の実態をわかることができ、募金をしたり、ボランティアなどをしてくれる人も出てくるのではないかと思います。 また、辛い人はかんじゃだけではなく、その世話をしている家族です。 その人たちは自分のしたいことを十分にできていないというのが実態です。 自分は、その人々の方が辛いなのではないかと思います。 なぜなら世話をしている人たちは、お金をもらえないからです。 この問題を解決するには、国もしくは県、市が見ないふりをせずに、世話をしている人々を助けてあげればなと思います。
認知症の人はその病気のせいで日常生活を思うように過ごせないこともある。 そのため、認知症の方の楽しい思い出を地域の方がカレンダーなどにかき、思い出として残す。 判断力がにぶるという点は地元のスーパーなどは店員を１人専属として一緒に買い物をすることで本人の意志を尊重しながらスムーズに買い物を済ますことができる。
応援するにはまずワークショップなどで家族の話をきくことが大事だと思います。 しっかりと話をきき、その家族に合った支援方法を考え実行することが一番だと思います。 その他にもお金などの支援だけでなくヘルパーさんを負担なしでやとえたり、必要なものを市がそろえたりするのも良いと思います。

提案内容
認知症の人がいる家庭は必ずしも介護する側にはストレスがたまってしまうと思います。 また、周りに認知症をわずらう人がいないとそのストレスを共有できる相手がいない訳だから、自分一人で抱え込みすぎて自殺にいたってしまうことだってあります。 だからこそ、認知症と診断されたらそれと同時に認知症をわずらう人をもつ家庭が集まったコミュニティーを紹介する。 または認知症という病気を家族が受け入れられた時にそういったコミュニティーの案内を病院側がするべきではないだろうか。 地域の掲示板などにそのコミュニティーの案内が、提示されていたとしても、あまり目立たないため参加する人は少ないと思います。 コミュニティーに入りやすい、かつ誰もが一度はそこに参加するか否かの判断を下せることが大切だと思います。 私は病院でそういった案内をもっと盛んにするべきだと思います。
私達のように、まだ、両親も普通に働いているような家族の人達は、正直認知症とは全く無縁の生活を送っている。 そのため、認知症の人やその家族がどのような思いをもっているのか分からないし、認知症について考える機会もないかなと思う。 なので、まずは、認知症になると、どのようなトラブルが起き、どのように助けてほしいのかを知る機会が必要だと思う。 例えば、地域の新聞に、認知症について・みんなが読みやすいまんがのような形でのせたり、地域のテレビで認知症の人やその家族に密着して、どのような面で大変な思いをしているのか知れる機会があるといいと思う。 また、認知症の人のつけるキーホルダーなどを作って、病院で認知症と診談された人に配り、かばんなどにつけてもらえば、地域の人も認知症であることを理解できて、助けてくれる人が増えるのではないかと思った。
認知症の人やその家族を地域で応援するためには？ 認知症の人用の介護をつくり、そこにふれあいの広場を設ける。 保育園などと合体させれば認知症の人たちは元気をもらえるし、園児はおじいちゃんおばあちゃん的な存在が増えていいナと思う。
1で述べた通り、共感して共存することは難しいが、共感できる人はいるのでその人たちが積極的に発信していくことによって共感できる人々が増えれば、認知症の人たちとその家族の応援になると思います。
いつも誰かが認知症の人と一緒に行動する。 家で誰かと思い出を語り合う。 僕は認知症の人やその家族を地域で応援するためには、1の認知症の正しい知識を地域で広め理解させ、誤解や偏見をなくす必要があると思いました。 1つの方法は、学校の特別活動の時間に子どもたちに認知症の正しい知識について授業することです。 まだあまり認知症のことをよく知らない、つまり偏見があまりない子どもたちに教えるのは楽だと思ったからです。 さらにその授業でポスターを作らせて役所などに貼り付けるのも良いと思いました。
小学校などでの講義に『認知症』の話題を取り入れるのはどうでしょうか。 認知症に対して何の偏見も持っていない子供たちに正しい理解を深める。 親なども聞くことができるといいかもしれません。 保護者が子供の側から学ぶ、という形が生まれれば、これから認知症になる可能性もある家と暮らす親子2世代もしくは3世代に良い効果があるかもしれません。 認知症は多くが家族の問題になるので、市は個人ではなく、小さな子供を含む〝世帯〟にアプローチしたら良いと思います。
認知症について身近なものであるということを知ってもらうために広告を出したり、身近な人が認知症である人の交流会を開いたりして悩みを共有したりして正しい認識が広まるようにする。 また、もしどこか1人で勝手に出ていってしまった時、近所の人が一早く異変に気がつけるように、近所の人にもある程度は認知症であることを話しておくべきだと思う。 いつだれがなってもおかしくない病気であるため、差別をしたりする必要はないと思う。 近所の人にオレンジリングの人を増やしいつだれがなってもサポートできる体制をとる。
認知症について知れるような講座を各学校で開く 認知症の方が近くにいるような人に話を聞ける機会をつくる 認知症の方を地域全体で理解していく 支援する　重症度によって変える
応援するには、適度な外出をすることを呼びかけることが重要だと思う。 認知症になった人は顔の表情筋が衰えるため顔全体が垂れ下がり、口角が下がってしまうと聞いた。 しかし、外に出かけたがり、徘徊という行動を起こす人もいる。 そういう人は認知症の家族と地域で連携して、GPSをつける、認知症専用のアプリを入れるなどして応援できるのではないかなと思う。
常に認知症の人との交流を続けるために、近所の人とあいさつだけでも交流ができるようにあいさつ運動を呼びかけるようにしていけばよいと思います。 声に出さなくてもその人が認知症だと分かるようになれば、支援の手も行き届くようになり、気遣いが出来るようにもなります。 また、あまり見かけないようになったら家を訪問してみるようになれば更に良いと感じました。
認知症の人と向き合えるような機会をつくるのが１番良いと思う。 でも講座などとなると忙しくて行けない人が多いと思う。 そこで１家族に１つ認知症との向き合い方みたいな本や資料を配って欲しい。 漫画のようにすれば大人だけじゃなくて子どもも興味が出ると思う。 他にも認知症対策の話や解決策、それこそ講座への呼びかけも載せれば一石二鳥になりそうだなと思いました！
1ヶ月に1回くらいで地域で集会を行うようにして家族に認知症の人がいたりすることを知ったり伝えたりするようにする。 認知症の人のマークを作成したり住所や電話番号が書かれている名札のようなものをつくったりして地域の人が認知症の人を助けたり理解できるようにする。 認知症の人への誤解や偏見をなくすためにいろんな人と一緒に遊ぶイベントを地域で行ったらいいと思う。
私のおばあちゃんも認知症で、このあいだようやくし設に入ることができました。 それまでの日、私の父親は毎日毎日どんな時にでもかかってくる電話にずっとなやまされていました。 放置すれば、警察の方に話しかけに行ってしまったりもしていました。 物がないといって父が「これでしょ」といっても、これじゃないと愚知ばかりでした。 ありもしない事をゆってみたり、昔の話をずっと何度も電話をかけてきたりするのがおばあちゃんであると信じたくもない父はとてもつらそうでした。 そしてそれは父のみではなく、色々な人もなやまされていると思う。 だから、そういうつらさを家族だけではなく、なにかにぶつけられるように、つながってない電話ボックスを配置してみると良いなと思いました。 つながってないからこそいえることがあると思います。
認知症についてくわしい人が、認知症の人、認知症の人の家族の人と連絡をとり合ったり話をしたりしてサポートできるような制度をつくる
・自販機など防犯カメラの量をもっと増やす ・家族や介護士（？）のストレスや負担をかかりすぎないようにするために医療保険などのサービスをもっと拡大する。 ・施設や介護士が増えるためのサービスをつくる。

提案内容
認知症の人は毎日一定の生活習慣が大事で、例えば元主婦だった女性が認知症になったがゴミ出しだけは毎日しっかりとするなど、昔のことに関しては覚えている人もいる。 毎朝ラジオ体操を地域でやったり、月に1回認知症の人たちを集めた集まりを開いたり、定期的に昔の写真アルバムを見返したり、思い出話をすることが大事。 また、会話したことを憶えてもらえるようにいつも同じ色の服を着るとか同じ所でお話することも大事。
同じ地域の中にも認知症の人はいると思うのでそういった人達で交流をする機会をもうけることや、認知症の家族を持つ人達の交流する機会を作ることで、悩みや苦しみを打ち明ける場を作れたり、心が少しずつ明るくなるきっかけをつくることができるのではと思った。 また理解するのは難しいかもしれないけど、認知症の人との距離を遠くするのではなく、近づき、関わりを持つことも大切なのかなと思いました。
福祉関係の会社や地域の医療機関と連携をとりながら、認知症の人やその家族の家を訪問するという形で生活面、医療面でのケアを行えるような体制をつくっていったり、認知症の人の介護をしている人向けに、無償の相談会を開く、精神科等の受診の際に補償をつけたりと、精神面、金銭面でのケアを行うなど、認知症の人を支える人たちが少しでも楽に、安心しながら介護を行えるような制度を整えていくべきだと思います。 他にも、福祉関係の会社の現場での人員不足等の問題にも、解決策を模策していく必要があると思います。
認知症とはどんなものかを学校で説明し、認知症の症状を知り、どう接するのが適切なのかを考える。 今の人たちは認知症はいずれ皆なると誤解しているが正しい行動をとっていれば、発症をゆっくりにすることができるということを、知る。 若い年代の人たちが認知症のことを正しく理解できたら、認知症の人をサポートできるようになっていき、その地域全体がよくなると思う。
まず認知症について正しく理解してもらうために、市が定期的に無料で受けられる認知症についての講演をする事を提案します。 実際に認知症にくわしい医療関係者の方にも来ていただいて、認知症の方との正しいむきあい方や正しい対処の仕方を教えていただきたいと考えます。 そして認知症の方が家族の中にいるご家庭には金銭的な援助などをしたり、年配の認知症の方などを集めて老人ホームなどにあっせんまたは専用の老人ホームなどを市が建設し、市に住んでいる方を中心に施設で介護をするのも良いと思います。
認知症を治したことのある人またなってしまったことのある人の話を回りの人が聞く機会があった方がいいと思うので認知症になったことのある人が書きこめるWebページや病院でアンケートなどをとりそれをふまえそのようなページに書きこむとこがあるべきだと思う。 回りの人がやっぱりがンばらないといけないと思うので回りの人特に若い人への支援がいる。
老人ホームをつくって安全にくらせるようにする。 さいたま市ではそのようなごかいや偏見をなくし、認知症の人が住み慣れた社会の一員として自分らしく暮らしつづけられるように、どのように考えるか、をまとめた資料を作り各区役所情報公開コーナーと市ホームページで知らせ、過去に実施したテーマへの提案と市の方針を市のホームページでかくにんし、それについて深く考えもっと考えいろんな人に知らせてみる。
認知症にはさまざまな脳の病気により、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、日常生活に不具合が症じる状態をいいます。 誰にとっても身近な病気であり、今後認知症の人と関わることが多くなると思います。 しかし、家族が認知症になったとき、誤解や偏見からそのことを隠してしまい、地域からの助けが受けにくくなることがあるため、住み慣れた地域で社会の一員として自分らしく暮らせるように考えていくことが大切であると考えます。 それを考える仲間たちの輪「チームオレンジ」があるから、もっと沢山の人に、広めて、参加してほしいと思います。 また、中学生から、自由な発想を集めることが大切だと思います。
ぼ金（チャリティー）を行うと良いと思います。 金銭的な問題もあると思うので、任意のチャリティーを行うと良いと思います。 そのお金で認知症の方々に薬を提供したり、医りょう費を提示することで、認知症の方々も、その認知症の家族も過ごしやすくなると思います。 また、認知症の方々用の老人ホーム等を建設するのも良いと思います。
認知症の人やその家族を地域で応援するためには認知症本人の人の話をよく聞いて他の人に話を共有することだと思いました。
実際に自分達は認知症のことをたいして知りはしていないです なのでそのためには実際に認知症の人々がどのように困っている、どのような症状なのかを把握することで家族や地域全体で応援をすることができると思いました。 そのためにも市の人達が認知症についての講座を開いたりすることにより認知症の理解が深まっていくと思いました。 あとは認知症は身近な病気ではあるのでそういう意味でも年齢を問わず講座に行ったりしてみるのもいいなって思いました。
まず初めにさいたま市に住んでいる住民のみなさんが、家族が認知症になったということを認知症についての問題を解決する仲間である「チームオレンジ」に素直に報告することができる環境作りをすることが必要である。 チームオレンジの人数を増やすのはその後である。 増やすための方法としては、チームオレンジの行動内容や実績を市のホームページ上で公表し、チームオレンジの魅力をさいたま市に住んでる人に伝えるのがよい。
認知症の人が家族にいる家庭の人達が集まって、一緒に話し合ったり、して、共感したり、解決する案を出して、仲間を増やす。 地域全体で解決する。 認知症の専門家などを呼んで話を聞いて、どのようにサポートなどをするかを地域で考える。 認知症の人がいない家庭でも、知ってもらうようにする。
認知症の人やその家族が集まって情報を共有し合えるような会を開く。 また認知症の家族の負担を減らすためにその地域の人なら安く入居できる老人ホームを建設するといいと思う。 まわりに頼れる人がいない状況や、頼れるサイトが分からない状況をつくらないよう、認知症と診断されたさいに情報や悩みを共有できるコミュニティを紹介するのもいいと思う。
認知症予防の薬や本を作るためにお金をつかう。 認知症予防のための本や運動しせつを造って予防を重視する。 認知症になってしまうのは仕方ないことだとは思うけど、かいごやサポートするのは大変だし、時間も体力もつかうので、認知症の人を集めて学校みたいにして全員認知症という空間を造って、その場所でドリルをしたり認知症がよくなるであろうことをする。 また、その学校にサポートする人に給料を出してサポートしてもらったらいいと思う。 私は、他人の世話を良心だけでやりたくないので、給料を出したら、やる人もいると思いました。
認知症の人のお世話をする人の大変さを知らない人がいるため、その人たちのことを新聞や雑誌の一部に乗せれば良いと思う。 認知症の人や、認知症の人をお世話する人たちのつらさや大変さを多くの人が知ることで、募金活動などの活動をすることで、お世話することによって生活がまずしくなったりしている人々の助けになると思う。 また、ウェブページをつくってもいいと思う。 新聞よりも身近な存在であるネットにあげることで、それを理解する人々も増え、認知症の人やその世話をする人が生活しやすい環境になると思う。
認知症の方は、重度でなければ、昔の学生時代などのことはまだ覚えているのだ、と思ったことがあるが、そこから考えるに、昔やっていた文化的な行事などを復活していくことで、認知症の方にもやさしいまちをつくることができるのではないかと思う。 また、介護者がいないという事態が一番起こってはならないことだと思うため、介護に特化した施設を増やしていくのも重要であると思う。

提案内容
地域で手伝いをできる人を募集して、自治体などで取りまとめて認知症の人がいる家庭に派遣して家族の負担を減らすことができるような仕組みを作ることが１番だと思います。 また、ボランティアを集めるために認知症についてのセミナーや介護のレッスンなどを定期的に行うことが必要だと思います。 そうすることで住民の目にとまる機会も増え、地域全体で認知症について関心が高まると思います。
認知症の傾向が見られた際は、健康な食事を取らせるように家庭で対処するべきだと考えた。 また、分からないことがあればすぐにネットで調べようとせず自分で考えることが重要だと思った。 また、外に出ることで色々な刺激を得ることができるので、市が世帯に関係なく外出を促進するような行事を開くことで認知症を患った人やその家族に対するケアに繋がると思った。
認知症の人が自分の身近にいることを知るためにポスターをはる。 優しく話しかける。 相談窓口を設置する。 居場所作り。（認知症カフェ） サポーターの養成。 ご飯を食べたらチェック。 優しい口調でハッキリ話す。 しっかり話を聞く。
認知症の人を認知症の人と扱うのではなく、同じ人として見る。 特別に扱うことは差別につながる。 やはり物事は平等に見ることが大切だと思った
ＳＮＳなどを取り入れて、四コママンガなどで、認知症について、まず興味を持ってもらう。 認知症の方の気持ちを最大限理解した後、その家族の方が何を必要としているのかを考えた上で、変に区別したりせずに対等に接して生活によりそう。
・市が主体となって、認知症の家族や、ヘルパーなどに講演会を開く。 ・認知症患者の家族が、いつでも相談できるサポート体勢を整える。 ・患者家族の介護負担が増えすぎないように、ヘルパーなどを利用した際に、補助金を出す。 ・自治会などで、認知症患者の見守り活動をする。 ・小学校で、認知症のポスターを作ったり、実際に認知症患者の介護を担当する方の話を聞くなど啓発活動をする。 ・認知症患者同士で、談笑できるコミュニティをつくる。
認知症は他者から見れば、ただの覚えの悪い人なので、自分が認知症であると揚げる必要があります。 例えば「私は認知症です」と書かれたカードを首に下げるなどです。 認知症の方はほとんどが高齢者であるため、老人ホームなどで下げていても違和感はないと思います。 認知症はその患者だけでなく、家族への支援も必要であるが、給付金などはただのお小使いとなってしまうので、ストレス面・もしくは介護面の支援が必要だと思いました。 例えば認知症に特化した介護者という新たな業種をつくるか、ロボットに介護をさせるかだと思います。
対象の認知症の人やその家族に対して、お金を配ったり、その対象の家族の方々に認知症の方をサポートしやすいよう、育成した人を送るサービスを作ったり老人ホームの拡大化を進めたりする
認知症の人々が安全で安心できる環境づくりが必要だと思った。 小売店が認知症の人で分かるようなデザインで商品を売ったり、認知症の人々へのコミュニティーが必要だと思った。
認知症の人が何もできない、何も知らないわけではないなら、支援しなくても生きていけると思いました。 認知症の人たちを看病する人たちはとても大変でストレスがかかると思います。 なので、まず認知症の人を減らすことから始めないといけないと思いました。 もし今、認知症の人を支援することができても、将来認知症になる人が減るわけではありません。 大切なのはこれから認知症の人を出さないようにすることです。 こういったことから、認知症の予防法などをくわしく知ることができる機会を学校や若者の間で作るべきだと思いました。
認知症の人がいる家族にどのように介護したらいいかの説明をする。 家族が忙しくて介護があまりできないという家庭にヘルパーの人をつけて、認知症の人から目をはなさないようにする工夫をする。 認知症の症状の度合いでどのような介護をしたらいいのかの違いとかもはっきりさせる。 家から出ていってしまって探すのが大変というのをきいたことがあるので、首にその家族の電話番号とかが書いてあるカードをかけておいて、みつけた人が連絡して少しでもはやく家に帰れるような工夫をする。
認知症はこういう症状なんだと体験できる所を設けて、幅広い年代の人に認知症のことを理解してもらう。 理解してもらったところで介護の充実などを求めてぼ金をつのる。
使い方とかやり方とかを書いた紙を張りつけて認知症の人が外に出ても自分で1人で行動できるようにしたらいいと思う。 認知症の人がいる家族を数組で話し合う場を設けるとか…。 認知症の人が家族のことまでもを忘れてしまう前に、地域で楽しく遊べる場だったりを設けて、思い出づくりをしてもらうとか…。 本人だけじゃなく、家族も辛いだろうから、役所とかにカウンセラーみたいな人を呼ぶとか…。 認知症の人たちは外に出て、うろうろする的なことをきいたことがあったので、迷いこんでもいいようなそれ限定の公園とかを設置して、中にバス停（バスは来ないけど）とかもろもろ置いて、あぶなくないようにしたら、事故も防げるし、一石二鳥かなと思います。
認知症は会話をすることで進行をおくらせることができる場合もあるので、認知症の人でも、家の外に出て、例えば公園であったり、地域の人が集まるようなところに行って人とはなすことは大切だと思います。 なので、むやみに施設に入れるのではなく、家の外に出やすい街づくり、環境づくりが大切なのではないかと考えます。 しかし、徘回をしてしまう人もいると思います。 そういったとき大事なのは、やはり、近所の人同士のつながりであって、近隣との関係をとざしがちな今ですが、やはり、そのつながりがあるだけで、行方不明になる認知症の方も減ると思います。 認知症はだれでもなりうる病気なので、近所の人とのコミュニケーションは、今からとるべきだと私は考えました。
家族がもし介護できないとき、家族の代わりにそばにいてくれるサービスを無償でやる。 認知症患者を集めてお話して楽しむ場をもうける。 そこにあずけているあいだ家族は仕事に行けたり、ゆっくりすごせるから良いと思う。 介護で仕事にえいきょうが出そうになったら補助金を出す。 介護でのきゅうかを認める。
認知症になったら親族は申請すれば介護する代わりに会社を休み、給付型の金を渡すという制度を作れば良いと思う。 地域コミュニティーを確立し、近所の人たちと協力して介護をしていく。

提案内容
・認知症の人やその家族の数を知る。またその実態を家族から聞いたり相談を受ける機関を設け、それが広まるよう ①回覧板や電柱、介護に関係する建物の近くに貼り紙をする。 ②児童館や薬局、コンビニなど認知症の方の家族が訪れそうな場所に掲示、配布する。 ・認知症に触れた人達が身近にある認知症について話せる、伝えられるように図書館や児童館など幅広い層が使う施設や、困っている家族や本人が相談や話をしやすいようにコールセンターや対応出来るＡＩなどを用いて少しでも負担を減らせるような施設を作り、あることを広める。 ・介護をする人により支援が届くようにする。
人からもきらわれず、正しく消えるようする。
認知症の方々がちゃんと日常生活を送れるように、町づくりを頑張る。 公園や文化館などの公共の建物をたくさん作り、そこでも認知症の方々が安心して利用できるようにする。 また、家族の方々も安心できるように町全体で認知症のような方々が居た時に声をかけるなど声かけなどを積極的にする。 また、老人ホームなどを建て、そこにはちゃんと看護士などを配属する。 金額の方もたくさんの方が利用できるように今よりも安めに設定する。 月に１度程、認知症がどのような物なのか、ちゃんと知れるように、講義や、そうならないように予防策や、なったときの為にちゃんと学ぶ機会をもうける。
・妊婦さんがバッグに付けているようなマークを認知症患者の方もつけるようにする。 ・私の小学校でもやっていた、視覚障害者の方の、視覚を、自分の体で体験するということを、認知症の方も同じようにする。（地域の活動としても） ・認知症の方の介護施設の近くに、その御家族の方が住めるようにする。
認知症を悪化させないように体操や頭のトレーニングなどを地区ごとにもうけ名簿を用意しだれが来ててだれが来てないのかも明確にしたら認知症の悪化や認知症になるのが減るのでやったらいいと思います。
出来る事はない。 既存の状態以上の進展は必要ない。 何より憲法によれば基本的人権は国民の三大義務によって成り立つので、三大義務を行っていない一部の国民は憲法上では人権は保障されない よって国がこの問題を優先して取り扱うのは不適切である それよりも一部地域における教職員の補填や、生活習慣病等に対する注意換起のセミナー等を行い、人権の保障された国民に対する援助が必要である。
・地域の人々が、その認知症の人や家族のことを把握する。住所や、その人の名前などを、知ることで、認知症が発症しても無事に見つけたりすることができる。 ・認知症によって、忘れることが多くなっても怒らずに、地域の人々で優しく接する。 ・認知症の人と地域の人々が接する機会を増やす。
認知症の人のためにイベントとしてテストのようなことをしてみんなで楽しむ。 →折り紙（こうていがあるので認知症への改善につながる）。クイズなど（なぞなぞ）↓めいろなど（ダンボール）このような認知症への改善につながる（予防）イベントや認知症でも楽しめるイベントを年に1、2回開いてみたらどうか。
認知症になりやすい年齢層の人やその家族へ向けて認知症についてのガイドブックを配る。 具体的にどのような症状が起こるのか、それ1つひとつにどのように対応すべきかを項目化・リスト化して、自治体から配る。 そうすることによって介護をする人の負担軽減にもつながる。 また地域で応援することを目的に高齢者を集めて講習会を行ったり、子どもとの触れ合いにより認知症の人のモチベーションアップにつなげたり、それを機に子どもにも認知症を知ってもらったりするイベントを開設する。 またそれらの情報をガイドブックにのせることでイベントの知名度を上げ、参加者を増やす。（ガイドブックを地域の学校などに配ると認知症の理解度の向上にも効果的）
・お店や、しせつなどに行ったとき、認知症の人やその家族がカードみたいなものを出して、とくてんを受けられるようにしたらいいと思う。例）□%offで買える・無料で、できる。など→パパママカードなどがあるように、認知症応えんカードを作ったら認知症の人たちも、うれしいと思う
認知症とはどのような病気でいつ頃からなる方が多いのか知らない人が多いと思うので、認知症について学ぶ講演会を開いて、まずはみんなに知ってもらうことが大切だと思いました。 その後に、認知症の方々とふれ合うことができるような交流イベントがあったら、もっと良くなると思います。 なぜなら、イベントを通して、認知症についてを子供から大人まで知ってもらう機会になるからです。 認知症の方がすごしやすくなるためには、ボランティアを募って手伝いを行ったり、ポスターで、みんなに手伝ってもらったりした方がよいかと考えました。 また、ユニバーサルデザインやバリアフリーに目を向けて、改善した方がよいところは改善するなど、それで寄付をするなどしたら良いと思います。 バリアフリーだと、階段をスロープに変えるために寄付を行ったら協力することになります。 このようにできることはたくさんあると思うので、街中で困っている方をみつけたら、声をかけてあげることが、認知症の方を応援する第一歩につながるのではないでしょうか。
認知症の方を家族に持つ方が、集まって情報を交換したり、悩みを相談できる場所があれば良いと思う。→ＳＮＳなどで活動内容を報告
無料認知症老人ホームをつくる→税金で
・認知症助成ボランティアみたいなのをつくる。 例えば、ボランティア団体のマーク（⊕）みたいなのをつくって、それを広め、認知症の人はそのマークを持っている人をみかけたら気軽に声をかけれるようにする。 認知症の人も、バックなどに貼れる認知症のシールみたいなのをつくって、ボランティアの人はその人が困っていたりしたら声をかける。 ・認知症の方々が集まる会みたいなのをひらく。 認知症の人同士だからこそ、気が楽でいれる環境などがあればいい。 介護士みたいな人も用意して、困ったら助けれるようにする。
認知症を予防するための施設や方法などの動画をアップロードをしたら良いと思う。 他人もポスターなどでも施設や方法を紹介し、たくさんの人に知ってもらえるようになれば、認知症になる人は少しでも減らすことができると思う。
学校でその内容に沿った授業を行う。 認知症についてや、対応の仕方など。 普段あまり触れる機会が少ないため、作る。
・認知症の人たちが集まる場を作って簡単なトピックについて話し合ったり、そこで実用性のある景品等を参加してくれた認知症の方たちに渡す。 ・認知症の方でも分かるような表記を増やす。（スーパー等）

提案内容
地域全体の日記を作る
身内に認知症の人がいる時、周りの目が気になるという気持ちから隠してしまう事があるため、認知症の人に対する取り組みをもっと大々的に広めるだけで効果はあると思う。
認知症の人でも何も出来ないという訳ではない。 認知症の人でも人とふれあうことを楽しんだり、働くことだってできると思う。 例として、近年では共働きの人が増えていて保育園探しをしている家庭が多くあると思う。 認知症の人が今までの経験から保育に協力することができれば、保育園で働くことができるのではないか。
認知症の家族にお金をわたす。 道案内パネルをふやす ショッピングモールがガイドをつくる。
認知症の人やその家族が話し合える環境が必要だと思う（市で開催？） 家族しか分からないこととかもおなじ悩みを抱えている人同士で話し合った方が理解がすすみやすいし、よい意見もでやすいと思うから。 また、日頃のストレスが軽減されれば介護づかれがきっかけの事件とかも減りそう。
老人ホーム等の施設に入りやすくする。 数を増やしたり、お金の支援をしたりすれば入りやすい。 それと同時に、介護士も必要になる。 介護士の給料を上げる。
地域でちょっとしたサービスを受けれるようにしたり、講習などで理解を広げていったほうがよいと考えます。
認知症の人の為の小さな学校のようなものをつくる。 電話番号（家族）を常に持ち歩かせて、迷子になっても、電話をかけて、家族の方が迎えにこれる。
予防ゲームを配るとか最近はゲームが進化しているので予防ゲームはよいと思う
・認知症の方にあらかじめ住所と電話番号が書いてある紙をネームプレートとしてかけておくことで、迷子になってしまった時も周囲の人が助けられるようにする。 ・町中に「ちょっと待ってその外出」的なポスターを貼りまくる。 ・認知症を正しく理解してもらうために小・中学校に特別授業として取り入れる。
認知症は誰でもなりうるため、偏見をもたずに、信用できるソースから情報を得る。 今では、認知症は身近な病気であるため、家族や地域でサポートをする体制を当たり前にする。
認知症の人を介護する人を雇えるようにしたらいいと思う。 認知症予防教室みたいな認知症がすすまないようにする教室をつくってみてはどうか
町の掲示板や回覧板、広報に認知症について記載し、多くの人に正しい情報を知ってもらう。
学校などで授業をして理解を深める。ボランティアをする。
・家族などへ応えんメッセージを送る（市役所などで） ・認知症の家族をもつ人々が集まれる場をつくる。→話すだけで気が楽になるし、相談することで助け合える　家族の人の話を聞き、どう対応すればいいかを知る。 ・店とか駅などの公共きかんに認知症対応マニュアルを配布 ・家族の人の心のケア
認知症の人たちへ 気をつかったり、やさしくして、病院につれていってあげたり。 まづは気づかいをたいせつにしよう　ふあんがあったときは　ひとまずおちつくこと、話をすること、おちついてそのばではなせるかとかくすりをのんだり　するとか　やってあげてほしいし または病院を行ってあげること、 ちゃんと話をしてあげてほしいとおもいます 気づかいと、おちついてはなしをすること まずはおちつくことですね。
僕が思うのは、認知症の人をみかけたら、話かけないで、見守った方がいいと思います。 その理由は、認知症のことで、その人や、その人の家族がなやんでいるかもしれないから、「あなたは～ですか」とか、そうやって、話かけたりして、その人が急に気持ちがかわって、おこったり、かなしんだりするかもしれないから、見守った方がいいと思いました。 でも、その人がもしも家にかえる道をわすれたり、まよっていたらすぐに話しかけて、けいさつの人に、連絡して、ぶじに家にかえらせてあげたり、けいさつの人がくるまで話をしてあげたり、優しくせっしてあげたら、その人のなやみもすこしはやわらぐとおもいました。
まずははじめに、認知症の方が居る家の近くの人が動かなくてはいけません。 そして、認知症の方のご家族もはずかしがらずに回りの方に知らせなくてはいけません。 そしたら、その認知症の方が家から飛び出した時に助けてくれるはずです。 そして、もしご家族の方が自分の口から回りに言いずらいな～って人がいるのであれば市がアンケートをぼ集しその家全てにえんじょであったりヘルパーさんをつけたりすれば、ご家族も仕事に行けたり好きな事できたり そしてそれとは逆に認知症の方も家族に迷わくをかけなくてすみます。 このように市や回りがすこし動くだけで認知症の方がたを助けられるのです。
キーホルダーかなんかを作って、「あ、この人は、認知症なんだ」とか、分かるようにする。イベントを開く。
ヘルプマークみたいに認知症ですよというマークをつくる。 認知症の人たちのために安心してもらえるような所をつくる（老人ホームみたいなやつ） デイサービスみたいなやつをつくる いっこいっこていねいになんどもやさしくおしえる。
任意で町内会の人にお知らせする。 この家に認知症の人がいるという情報を。 認知症の人が家から勝手に 出ちゃった場合とか用に。
・今の活動内容や良いところをチラシやポスターで知らせる
まずは認知症についての理解を深めることが重要だと思います。 それから、自分にはどんな事ができるのか少しずつ周りの人に相談しながら、外を出歩いている時や大きなショッピングモールにいる時に、認知症の方々に出会って、もしも何か迷っている時は声を掛けたりする、一つ一つの小さな行動がその方々のご家族を応援することにつながると思います。